

勉誠社

日本史研究会会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: 69a1069f0d

(期限: ~2023年11月30日)

謹啓

秋冷の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。

当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。

この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。

ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: 69a1069f0d (期限: ~2023年11月30日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・**3,000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス**
(※ 3,000円未満の場合は、300円を頂戴いたします。海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
日本史研究会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

【勉誠出版】研究書 近刊・新刊書籍リスト

2022年11月～2023年刊行分 **20%引き**

	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価 (税込)	割引価格	注文数
■事典・総記■							
	世界神話伝説大事典（オンデマンド版）	篠田知和基・丸山顯徳 編	2023/10	80036-1	27,500	22,000	
	江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕（オンデマンド版）	岡雅彦ほか 編	2023/10	80452-9	27,500	22,000	
	江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029-6	35,200	28,200	
	書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり―近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723-5	2,200	1,800	
	書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ ―香雪美術館書画コレクションを支える装演修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	1,600	
	書物学 第22巻 禅寺の学問―相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722-8	1,980	1,600	
	書物学 第21巻 活字―近代日本を支えた小さな巨人たち	編集部 編	2022/12	30721-1	1,980	1,600	
■歴史・文化財・美術史・思想史■							
近刊	永平廣録 大全―『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究ならびに解題・関連資料集成	大谷哲夫 著	2023/11	31017-4	71,500	57,200	
近刊	本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030-5	30,800	24,600	
近刊	国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの	総本山仁和寺 監修・宇都宮啓吾 編	2023/11	31012-9	13,200	10,600	
近刊	訂正新版 図説 書誌学―古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/11	30010-6	3,850	3,100	
	紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝（新コディコロジ―研究会） 編	2023/11	39036-7	4,950	4,000	
	東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田欽 編	2023/10	32032-6	13,200	10,600	
	続々 戦国武将逸話集―訳注『常山紀談』巻十六～二十五（オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95443-9	2,970	2,400	
	別冊 戦国武将逸話集―訳注『常山紀談』拾遺 巻一～四・附録 雨夜燈（オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95444-6	2,970	2,400	
	重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,400	
	日本人の読書―古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2023/09	39033-6	13,200	10,600	
	機巧の文化史 異聞―海を渡った三台のからくり人形	村上和夫 著	2023/08	32031-9	4,950	4,000	
	天地の間に己―人生きてありと思ふべし ―熊沢蕃山「コスモポリテス」の地平	大橋健二 著	2023/08	31016-7	4,950	4,000	
	古文書研究 第95号	日本古文書学会 編	2023/07	32405-8	4,180	3,300	
	大谷哲夫先生傘寿記念論集 禅の諸展開	大谷先生傘寿記念論集編集委員会 編	2023/07	31015-0	11,000	8,800	
	野村太郎の狂言入門	野村太郎・杉山和也 著	2023/07	37005-5	3,080	2,500	
	近世戯作の〈近代〉（オンデマンド版） ―継承と断絶の出版文化史	山本和明 著	2023/07	99174-8	9,900	7,900	
	地方史誌から世界史へ―比較地方史誌学の射程	小二田章 編	2023/06	32028-9	8,800	7,000	
	霊峰の文化史―世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005-9	3,520	2,800	
	江戸時代の貸本屋 ―庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029-9	5,500	4,400	
	綱川図と蘭亭曲水図―イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009-3	10,450	8,400	
	モノと権威の東アジア交流史―鑑真から清盛まで	シャルロット・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022-7	5,280	4,200	
	深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 ―近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子	2023/03	31013-6	22,000	17,600	
	黄泉の国との契約書―東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030-2	4,180	3,300	
	二一世紀の川劇―文化資源化の視点から	江玉 著	2023/03	37007-9	7,480	6,000	
	グレーゾーンと帝国―歴史修正主義を乗り越える生の営み	高綱博文・門間卓也・関智英 編	2023/03	32027-2	5,720	4,600	
	文と書―中国書字思想の探究	亀澤孝幸 著	2023/03	37008-6	8,800	7,000	
	古代日本の儀礼と音楽・芸能―一場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800	
	明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025-8	3,520	2,800	
	日ソ戦争史の研究	日ソ戦争史研究会 編	2023/02	32026-5	13,200	10,600	
	鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	舘隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,900	
	中世醍醐寺と真言密教（オンデマンド版）	藤井雅子 著	2023/01	83170-9	10,780	8,600	
	見る・知る・考える 明治日本の産業革命遺産 ―日本と世界をつなぐ世界遺産	岩下哲典・藤村泰夫 編	2022/12	32023-4	2,640	2,100	
	古文書研究 第94号	日本古文書学会 編	2022/12	32404-1	4,180	3,300	
	新羅政治社会史研究	武田幸男 著	2022/12	32024-1	13,200	10,600	
	もやもや日本近代美術―境界を揺るがす視覚イメージ	増野恵子・安松みゆき・河田明久・志邨匠子・瀧井直子・奥間政作・石井香絵 編	2022/12	37004-8	5,280	4,200	
	生産・流通・消費の近世史（オンデマンド版）	渡辺尚志 編	2022/11	82153-3	8,800	7,000	
■古典文学・文学史■							
	物語る仏教絵画―童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011-6	11,000	8,800	
	紫式部伝―平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035-0	5,940	4,800	
	比較文学で読む十一の出会い―交差する東西のまなざし	英米文化学会 編	2023/08	39032-9	3,080	2,500	
	紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031-2	10,780	8,600	
	日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018-3	16,500	13,200	
	中国古典をどう読むか―規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027-5	4,180	3,300	
	深掘り！紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010-7	2,640	2,100	
	平安文学の饗宴	中野幸一 編	2023/04	39028-2	16,500	13,200	

	杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446-4	3,300	2,600	
	俊頼髄脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・館野文昭・福田亮雄 著	2023/03	39025-1	16,500	13,200	
	学習院本「藤袴」（神原本傍帖）の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023-7	16,500	13,200	
	近世後期江戸小説論攷	山本和明 著	2023/02	39022-0	11,000	8,800	
	伝承と現代—民俗学の視点と可能性	加藤秀雄 著	2023/02	33004-2	8,800	7,000	
	源氏物語歌篋	伊東祐子 著	2023/02	39017-6	7,150	5,700	
	王朝物語論考—物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024-4	13,200	10,600	
	谷崎潤一郎の世界史—『陰翳礼讃』と20世紀文化交流	西村将洋 著	2023/02	39020-6	5,280	4,200	
	宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026-8	12,100	9,700	
	フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015-2	3,520	2,800	
	文学から環境を考える エコクリティシズムガイドブック（オンデマンド版）	小谷一明・巴山岳人・結城正美・豊里真弓・喜納育江 編	2023/01	89080-5	3,080	2,500	
	日本古典文学を世界にひらく Opening Classical Japanese Literature to the World—EAJS（ヨーロッパ日本研究協会）で発表しよう Presentations at EAJS	横溝博／クレメンツ・レベッカ／ノット・ジェフリー 編	2022/12	39014-5	4,950	4,000	
	京都文化および動植物の国文学的探究—矢野貫一著作集	矢野貫一 著	2022/11	39011-4	16,500	13,200	
	日本近世中期上方学芸史研究—漢籍の読書	稲田篤信 著	2022/11	39013-8	9,900	7,900	
	慈円『法華要文百首』全釈	石川 一 編	2022/11	39016-9	9,900	7,900	
	室町の学問と知の継承—移行期における正統への志向（オンデマンド版）	田中尚子 著	2022/11	89156-7	11,000	8,800	
	続「訓読」論—東アジア漢文世界の形成（オンデマンド版）	中村春作・市来津由彦・田尻祐一郎・前田勉 編	2022/11	88001-1	6,600	5,300	
	「訓読」論—東アジア漢文世界と日本語（オンデマンド版）	中村春作・市来津由彦・田尻祐一郎・前田勉 共編	2022/11	83184-6	5,280	4,200	
	日韓漢文訓読研究（オンデマンド版）	藤本幸夫 編	2022/11	88015-8	11,000	8,800	
■日本語学・言語学■							
	方言地理学の視界	小林隆・大西拓一郎・篠崎晃一 編	2023/05	38003-0	8,800	7,000	
■〈アジア遊学〉■							
近刊	290 女性の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程	永池健二 編	2023/11	32536-9	3,300	2,600	
	289 海外の日本中世史研究—「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535-2	3,520	2,800	
	288 東アジアの「孝」の文化史—前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雫雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534-5	3,520	2,800	
	287 書物の時代の宗教—日本近世における神と仏の変遷	岸本寛・曾根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,500	
	286 近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本	波瀾剛・西慎偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532-1	3,300	2,600	
	285 渾沌と革新の明治文化—文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,500	
	284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530-7	3,080	2,500	
	283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,800	
	282 列島の中世地下文書—諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528-4	3,300	2,600	
	281 神道の近代—アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,800	
	280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,600	
	279 上海フランス租界への招待—日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525-3	3,520	2,800	
	278 呪術と学術の東アジア—陰陽道研究の継承と展望	陰陽道史研究の会 編	2022/12	32524-6	3,300	2,600	
	277 宋代とは何か—最前線の研究が描き出す新たな歴史像	平田茂樹・山口智哉・小林隆道・梅村尚樹 編	2022/11	32523-9	3,520	2,800	
■図書館学・アーカイブ■							
近刊	ひらかれる公共資料—「デジタル公共文書」という問題提起（デジタルアーカイブ・ベーシックス）	福島幸宏 責任編集	2023/11	30303-9	3,520	2,800	
	博物館情報学入門【アート・ドキュメンテーション叢書2】（オンデマンド版）	E Orna & Ch. Pettitt 著／安澤秀一 監修／水嶋英治 編訳	2023/09	80172-6	3,850	3,100	
	共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ（デジタルアーカイブ・ベーシックス）	鈴木親彦 責任編集	2023/07	30302-2	3,520	2,800	
	デジタルアーカイブの新展開	時実象一 著	2023/03	30009-0	2,310	1,800	
	知識インフラの再設計（デジタルアーカイブ・ベーシックス）	数藤彦彦 責任編集	2022/11	30301-5	3,520	2,800	
歴史関連書籍（2022年10月以前刊行） 20%引き							
	書物学 第20巻 追憶のサムライ—中世武士のイメージとリアル	横浜市歴史博物館 編	2022/10	30720-4	1,980	1,600	
	火葬と両墓制の仏教民俗学—サンマイのフィールドから（オンデマンド版）	岩田重則 著	2022/10	82212-7	6,600	5,300	
	現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ2 ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ（オンデマンド版）	石田勇治・川喜田敦子 編	2022/10	82513-5	6,600	5,300	
	むら人たちの生活モード—中世日本民衆生活史入門	蔵持重裕 著	2022/10	32018-0	4,180	3,300	
	公文書管理法時代の自治体と文書管理	宮間純一 編	2022/10	30008-3	6,600	5,300	
	和漢朗詠集とその享受 増訂新版	三木雅博 著	2022/10	39012-1	16,500	13,200	
	村と民衆の戦国時代史—藤木久志の歴史学【アジア遊学276】	稲葉継陽・清水克行 編	2022/10	32522-2	3,300	2,600	
	「唐物」とは何か—舶載品をめぐる文化形成と交流【アジア遊学275】	河添房江・皆川雅樹 編	2022/10	32520-8	3,080	2,500	

	呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家【アジア遊学274】	瀧朝子 編	2022/10	32521-5	3,520	2,800	
	ナチスとユダヤ企業―経済の脱ユダヤ化と水晶の夜	山本達夫 著	2022/09	33003-5	8,800	7,000	
	上杉本洛中洛外図屏風の研究―桑実寺縁起絵巻と共に	小谷量子 著	2022/09	32020-3	9,900	7,900	
	中国の都市の歴史的記憶 ―一九世紀後半～二〇世紀前半の日本語表象	和田博文・王志松・高潔 編	2022/09	32021-0	7,700	6,200	
	日本の中世貨幣と東アジア【アジア遊学273】	中島圭一 編	2022/09	32519-2	3,520	2,800	
	近世期百姓の土地所持意識と村落共同体	菅原一 著	2022/08	32019-7	8,800	7,000	
	調べ物に役立つ 図書館のデータベース	小曽川真貴 著	2022/08	30006-9	1,980	1,600	
	対馬の渡来版経―護り伝える東アジアの至宝【アジア遊学272】	横内裕人 編	2022/08	32518-5	3,520	2,800	
	伝達と変容の日本建築史―伝わるかたち／伝えるわざ	野村俊一 編	2022/07	35001-9	3,850	3,100	
	古文書研究 第93号	日本古文書学会 編	2022/07	32403-4	4,180	3,300	
	醍醐寺の仏像 第三巻 明王	総本山醍醐寺 監修／副島弘道 編	2022/07	37203-5	46,200	37,000	
	儒教思想と絵画―東アジアの勸戒画【アジア遊学271】	水野裕史 編	2022/06	32517-8	3,520	2,800	
	史学科の比較史―歴史学の制度化と近代日本	小澤実・佐藤雄基 編	2022/05	32017-3	7,700	6,200	
	中世東国日蓮宗寺院の地域的展開	佐藤博信 著	2022/05	32016-6	13,200	10,600	
	歌う民衆と放歌高吟の近代 ―放歌民衆から唱歌・軍歌を歌う国民へ	永嶺重敏 著	2022/05	37003-1	3,850	3,100	
	日本中世の課税制度―段銭の成立と展開【アジア遊学270】	志賀節子・三枝暁子 編	2022/05	32516-1	3,080	2,500	
	近代中国美術の境界―越境する作品、交錯する藝術家 【アジア遊学269】	瀧本弘之・戦暁梅 編	2022/05	32515-4	3,850	3,100	
	北条義時の生涯―鎌倉幕府の草創から確立へ	菊池紳一 監修／北条氏研究会 編	2022/04	32014-2	3,080	2,500	
	中世神道入門―カミとホトケの織りなす世界	伊藤聡・門屋温 監修／新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2022/04	31006-8	4,180	3,300	
	入門 中国学の方法	二松學舎大学文学部中国文学科 編	2022/04	30005-2	1,760	1,400	
	ことば・ほとけ・図像の交響―法会・儀礼とアーカイヴ	近本謙介 編	2022/03	31009-9	13,200	10,600	
	宗教遺産テキスト学の創成	木俣元一・近本謙介 編	2022/03	31008-2	16,500	13,200	
	宋版一切経（福州版）調査提要―本源寺蔵の調査を通して	福州版一切経調査研究会 編	2022/03	31010-5	7,150	5,700	
	奈良絵本『太平記』の世界 ―永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究	中根千絵・森田貴之 編	2022/03	39007-7	55,000	44,000	
	訳注 琉球文学 『佐銘川大ぬし由来記』『周蘭両姓記事』『思出草』『浮縄雅文集』『雨夜物語』『永峰和文』	島村幸一・小此木敏明・屋良健一郎 著	2022/03	39009-1	12,100	9,700	
	書物学 第19巻 紙のレンズから見た古典籍	編集部 編	2022/02	30719-8	1,980	1,600	
	中国道教美術史 漢魏晋南北朝篇	李松 著／土屋昌明・齋藤龍一 監訳／廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美 訳	2022/02	37001-7	38,500	30,800	
	本朝文粹抄 七	後藤昭雄 著	2022/02	39511-9	3,520	2,800	
	大日本帝国期の建築物が語る近代史―過去・現在・未来 【アジア遊学266】	上水流久彦 編	2022/02	32512-3	3,080	2,500	
	古文書研究 第92号	日本古文書学会 編	2022/01	32402-7	4,180	3,300	
	コレクションとアーカイヴ―東アジア美術研究の可能性	板倉聖哲・塚本鷹充 編	2022/01	37000-0	10,450	8,400	
	飛鳥井家歌学の形成と展開	日高愛子 著	2022/01	39006-0	12,100	9,700	
	宗教芸能としての能楽【アジア遊学265】	高橋悠介 編	2022/01	32511-6	3,300	2,600	
	合戦図 描かれた〈武〉	中根千絵・薄田大輔 編	2021/12	32013-5	17,600	14,100	
	都市からひもとく西アジア―歴史・社会・文化【アジア遊学264】	守川知子 編	2021/12	32510-9	3,080	2,500	
	聖徳太子信仰とは何か	榊原史子 著	2021/12	31007-5	4,180	3,300	
	中国史書入門 現代語訳 北斉書	氣賀澤保規 監修／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/12	29612-6	6,600	5,300	
	慶應義塾図書館蔵 論語疏巻六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	慶應義塾大学論語疏研究会 編	2021/11	31004-4	19,800	15,800	
	従軍日記と報道挿絵が伝える庶民たちの日露戦争	西川武臣 著	2021/10	32008-1	4,180	3,300	
	室町文化の座標軸―遣明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	32011-1	10,780	8,600	
	日本中世社会と村住人	蔵持重裕 編	2021/10	32009-8	10,450	8,400	
	資料論がひらく軍記・合戦図の世界 ―理文融合型資料論と史学・文学の交差 【アジア遊学262】	井上泰至 編	2021/10	32508-6	3,520	2,800	
	首里城を解く―文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修／島村幸一 編	2021/09	32001-2	4,180	3,300	
	アヘンからよむアジア史【アジア遊学260】	内田知行・権寧俊 編	2021/09	32506-2	3,080	2,500	
	戦国時代劇メディアの見方・つくり方 ―戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/09	32006-7	3,520	2,800	
	中世武家領主の世界―現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/08	32003-6	4,180	3,300	
	近世の村と百姓	渡辺尚志 著	2021/08	32002-9	10,780	8,600	
	日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/08	31003-7	13,200	10,600	
	書物のなかの近世国家―東アジア「一統志」の時代 【アジア遊学259】	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/08	32505-5	3,300	2,600	
	杉田玄白と江戸の蘭学塾―「天真樓」塾とその門流	片桐一男 著	2021/07	32004-3	7,700	6,200	
	古文書研究 第91号	日本古文書学会 編	2021/07	32401-0	4,180	3,300	
	史料が語る東インド航路―移動がうみだす接触領域【アジア遊学258】	水井万里子・大澤広晃・杉浦末樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/07	32504-8	3,080	2,500	
	交錯する宗教と民族―交流と衝突の比較史【アジア遊学257】	鹿毛敏夫 編	2021/07	32503-1	3,080	2,500	
	元朝の歴史―モンゴル帝国期の東ユーラシア【アジア遊学256】	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/06	32502-4	3,520	2,800	
	書物・印刷・本屋―日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/06	30002-1	17,600	14,100	
	創られた由緒―近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/06	31002-0	8,800	7,000	
	中世寺院の仏法と社会	永村真 編	2021/06	31001-3	13,200	10,600	

	パブリック・ヒストリー入門（オンデマンド版） —開かれた歴史学への挑戦	菅豊・北條勝貴 編	2021/05	82254-7	5,280	4,200	
	大宅壮一文庫解体新書—雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志 編	2021/05	30001-4	3,850	3,100	
	勤番武士の江戸滞在記—国枝外右馬江戸詰中日記	岩淵令治 編	2021/03	32000-5	11,000	8,800	
	土地の記憶から読み解く早稲田—江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カーロリ 著／大内紀彦、 フィリッポ・ドルネッティ 訳	2021/03	22299-6	2,970	2,400	
	日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/03	20074-1	3,850	3,100	
	増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/02	22280-4	4,180	3,300	
	中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/02	22300-9	10,450	8,400	
	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	22301-6	9,900	7,900	
	古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/01	22277-4	3,300	2,600	
	生きるための地域史—東海地域の動態から	中村只吾・渡辺尚志 編	2020/10	22290-3	8,800	7,000	
	金沢文庫古文書 喫茶関係年資料集	永井晋 編	2020/09	22288-0	11,000	8,800	
	中世日本の茶と文化—生産・流通・消費をとおして【アジア遊学252】	永井晋 編	2020/09	22718-2	3,080	2,500	
	儒教儀礼と近世日本社会—閨斎学派の『家礼』実践	松川雅信 著	2020/07	21056-6	11,000	8,800	
	古代の日本と東アジア—人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/07	22279-8	11,000	8,800	
	新羅中古期の史的研究	武田幸男 著	2020/07	22278-1	13,200	10,600	
	書物学 第18巻 蔵書はめぐる —海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/07	20718-4	1,980	1,600	
	明治が歴史になったとき—史学史としての大久保利謙【アジア遊学248】	佐藤雄基 編	2020/06	22714-4	3,080	2,500	
	近世大名墓の考古学—東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明 編	2020/06	22276-7	13,200	10,600	
	江戸日本橋商人の記録 —〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/03	22269-9	12,100	9,700	
	琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/03	29197-8	11,000	8,800	
	日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/03	20073-4	7,700	6,200	
	甞る「豊後切支丹史料」 —バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/02	22261-3	13,200	10,600	
	近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一／マシュー・デーヴィス 編	2020/02	22267-5	7,700	6,200	
	近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/02	22265-1	11,000	8,800	
	日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/02	22266-8	6,600	5,300	
	歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/02	22257-6	11,000	8,800	
	幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/02	29196-1	11,000	8,800	
	古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編／ 国立歴史民俗博物館 監修	2020/02	22272-9	8,580	6,900	
	北条氏発給文書の研究 附 発給文書目録	北条氏研究会 編	2019/10	22256-9	16,500	13,200	
	近世・近現代 文書の保存・管理の歴史	佐藤孝之・三村昌司 編	2019/10	22253-8	4,950	4,000	
	鎌倉北条氏人名辞典	菊池紳一 監修／北条氏研究会 編	2019/10	22255-2	19,800	15,800	
	戦国期武田氏領の研究—軍役・諸役・文書	柴辻俊六 著	2019/08	22248-4	10,780	8,600	
	室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる	大内氏歴史文化研究会 編／伊藤幸司 責 任編集	2019/07	22247-7	4,180	3,300	
	戦国日本のキリシタン布教論争	高橋裕史 著	2019/05	22236-1	5,060	4,000	
	書籍文化史料論	鈴木俊幸 著	2019/05	22240-8	11,000	8,800	
	日本の文化財—守り、伝えていくための理念と実践	池田寿 著	2019/03	20064-2	3,520	2,800	
	由緒・偽文書と地域社会—北河内を中心に	馬部隆弘 著	2019/02	22231-6	12,100	9,700	
	よみがえる荘園—景観に刻まれた中世の記憶	海老澤袁 編	2019/02	22233-0	10,780	8,600	
	隠れキリシタンの布教用ノート 吉利支丹抄物 影印・翻刻・現代語訳	大塚英二 編	2019/01	22230-9	11,000	8,800	
	関ヶ原を読む—慶長軍記 翻刻・解説	井上泰至・湯浅佳子 編	2018/12	22227-9	6,600	5,300	
	変革期の社会と九条兼実—『玉葉』をひらく	小原仁 編	2018/10	22217-0	11,000	8,800	
	画期としての室町—政事・宗教・古典学	前田雅之 編	2018/10	22219-4	11,000	8,800	
	長祿合戦の史料学—いくさの記憶	金子拓 編	2018/10	22222-4	5,500	4,400	
	近代日本の偽史言説 —歴史語りのインテレクチュアル・ヒストリー	小澤実 編	2017/01	22192-0	4,180	3,300	
	日本古代交流史入門	鈴木靖民・金子修一・田中史生・李成市	2017/06	22161-6	4,180	3,300	
	古文書料紙論叢	湯山賢一 編	2017/06	22184-5	18,700	15,000	
	中世地下文書の世界—史料論のフロンティア【アジア遊学209】	春田直紀 編	2017/06	22675-8	3,080	2,500	
	紙の日本史—古典と絵巻物が伝える文化遺産	池田寿 著	2017/05	22176-0	2,640	2,100	
	文化財としてのガラス乾板—写真が紡ぎなおす歴史像	久留島典子・高橋則英・山家浩樹 編	2017/04	22173-9	4,180	3,300	
	「倭寇図巻」「抗倭図巻」をよむ	須田牧子 編	2016/04	22139-5	7,700	6,200	
	女性から描く世界史—17～20世紀への新しいアプローチ	永井万里子・伏見岳志・太田淳・松井洋 子・杉浦末樹 編	2016/04	22142-5	3,520	2,800	
	上代写経識語注釈	上代文献を読む会 編	2016/03	22138-8	14,300	11,400	
	国葬の成立—明治国家と「功臣」の死	宮間純一 著	2015/11	22130-2	3,520	2,800	
	日明関係史研究入門	村井章介 編集代表／橋本 雄・伊藤幸司・ 須田牧子・関 周一 編	2015/10	22126-5	4,180	3,300	
	「近世化」論と日本—「東アジア」の捉え方をめぐって	清水光明 編	2015/06	22651-2	3,080	2,500	
	東アジアのなかの建長寺	村井章介 編	2014/11	22101-2	3,850	3,100	
	入唐僧惠萼と東アジア 附 惠萼関連史料集	田中史生 編	2014/09	22093-0	5,500	4,400	
	書誌学入門—古典籍を見る・知る・読む	堀川貴司 著	2010/04	20001-7	1,980	1,600	

東アジアの 王宮・王都と仏教

堀裕・三上喜孝・吉田歆〔編〕

もくじ

はじめに●堀裕

第一部 東アジア比較史のなかの倭・日本

東アジアの王宮正殿仏事と正統性●堀裕
古代中国の都城と社●吉田歆

宮都における孟蘭盆会の日中比較●内田敦士
考古学から見た古代東アジアの鎮護国家政策の展開と意義●佐川正敏
日本古代の仏都と仏都圏●吉川真司

第二部 百済・新羅と東アジアの王宮仏事

百済・新羅の王宮と寺院●李炳鎬(金玄耿訳)
観音信仰、百済から日本へ——『観世音広験記』を出発点として●三上喜孝
東アジア王宮内仏教施設の比較研究——南朝・百済・倭を中心に●堀裕
七世紀における倭国の苑地と東アジア

——須弥山・呉橋・猿石の思想的背景●仁藤敦史

新羅の月池宮と拝仏・祭祀●田中俊明

新羅東宮の性格に関する一考察●金銀貞

新羅四天王寺の緑釉遺物と「琉璃水波形埴」●金銀貞(金東河訳)

第三部 「宗教の時代」のおわりと東部ユーラシアの王宮仏事

「天書」と「舍利」

——宋代宮廷美術における宗教文物の否定性と意味の変遷●塚本磨充

高麗王室の祖先崇拜と仏教・儒教

——真殿寺院・景靈殿と御容に関する考察を中心に●豊島悠果

盧舍那仏と栴檀釈迦瑞像——北宋・遼と日本の仏身論をめぐって●長岡龍作

契丹の都城・宮廷と仏教●藤原崇人

元の大都における宗教行事をめぐる基礎的考察●渡辺健哉

あとがき●三上喜孝・吉田歆

定価 一三、一〇〇円(税込)

本体 一一、〇〇〇円(+税)

二〇二三年十月刊行

A5判上製カバー装・四八〇頁

ISBN978-4-585-32032-6 C3020

前近代東アジアにおける王宮・王都は、豊かな交流のあり様を示す多くの共通性がみられる一方、時期や地域によって注目すべき大きな相違が存在する。これまで考古学や文献史学により、その諸相が明らかになってきてはいるが、王宮や王都における宗教行事に関する比較研究は、一部の行事を除けば立ち遅れている。六世紀から十一世紀にかけての東アジアにおける王宮と王都の比較宗教史研究を通して、地域や時期における共通点や相違点を明らかにし、東アジア世界における、それぞれの「王権」の特色を示すことで、今後の研究を牽引する画期的な一書。

堀裕 (ほり・ゆたか)

一九六九年生まれ。東北大学大学院文学研究科教授。専門は日本古代史。著書に『仏教がつなぐアジア——王権・信仰・美術』(共編著、勉誠出版、二〇一四年)、論文に「王宮からみた仏教の受容と展開——七世紀から九世紀を中心に」(佐藤文子・上島章編『日本宗教史4 宗教の受容と交流』吉川弘文館、二〇二〇年) など。

三上喜孝 (みかみ・よしとか)

一九六九年生まれ。国立歴史民俗博物館教授。専門は日本古代史。著書に『日本古代の文字と地方社会』(吉川弘文館、二〇一三年)、『落書きに歴史をよむ』(吉川弘文館、二〇一四年) など。

吉田歆 (よしだ・かん)

一九六五年生まれ。山形県立米沢女子短期大学日本史学科教授。専門は日本古代史。著書に『古代の都はどうつくられたか』(吉川弘文館、二〇一二年)、『日中古代都城と中世都市平泉』(汲古書院、二〇一四年) など。

書 名	冊数
東アジアの王宮・王都と仏教	定価 13,200 円(本体 12,000 円)
堀裕・三上喜孝・吉田歆〔編〕	A5判・上製カバー装・480頁 ISBN978-4-585-32032-6 C3020 2023年10月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社
(勉誠出版)

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

東アジアの後宮

伴瀬明美・稲田奈津子
榊佳子・保科季子 [編]

アジア遊学
283

東アジアにおける「後宮」の実像に迫る

皇帝・国君の妻妾が住まい、再生産が行われる場である「後宮」。ドラマや漫画、ゲームなどにもたびたび取り上げられ、今なお人々の関心を集めるが、その実態は、国・時代によって変化し、多様性に富んでいた。「後宮制度」の規範となり、儒教に基づく礼制に即しつつも、理念と現実の間で揺れ動き、また民族や時代によって変化し続けた中国。中国礼制を積極的に受容しつつも独自性を色濃く残した朝鮮。天皇だけでなく武家政権にも「後宮」が設けられるなど、独自路線をひた走った日本。日中韓のみで語られがちな「東アジア」という枠組みを相対化するインパクトを有する大越・琉球。中国、朝鮮、日本やその他の各地域において、後宮のあり方、後宮を構成する人々（妃嬪、女官、宦官など）の制度、儀礼、文化、日常の実態などを幅広く考察し、東アジアの後宮における共通性と多様性に迫る。

定価 3,520 円(本体 3,200 円)

A5判・並製カバー装・344頁
ISBN978-4-585-32529-1 C1320
2023年6月刊行

編者プロフィール

伴瀬明美（はんせ・あけみ）大阪大学大学院人文科学研究科教授。専門は日本中世史。主な論文に「女房として出仕すること——中世前期の貴族社会における女房」（総合女性史学会他編『女性労働の日本史』勉誠出版、二〇一九年）、「中世前期・天皇家の光と陰」（服藤早苗他著『歴史のなかの皇女たち』小学館、二〇二一年）などがある。
稲田奈津子（いなだ・なつこ）東京大学史料編纂所准教授。専門は日本古代史。主な著書・論文に「日本古代の喪葬儀礼と律令制」（吉川弘文館、二〇一五年）、「納棺・埋葬儀礼の復元的考察——トウルファン出土随葬衣物を中心に」（佐藤信編『律令制と古代国家』吉川弘文館、二〇一八年）などがある。
榊佳子（さかきけいこ）東京大学史料編纂所学術専門職員。専門は日本古代史。主な論文に「夫婦の同籍と片籍」（新川登亀男、早川万年編『美濃国戸籍の総合的研究』東京堂出版、二〇二三年）、「古代における天皇大葬管掌司について」（国立歴史民俗博物館研究報告第一四一集、二〇二〇年）などがある。
保科季子（ほしなすこ）関西学院大学非常勤講師。専門は中国古代史・漢代史・思想史。主な論文に「天子の好逑——漢代の儒教的皇后論」（『東洋史研究』六二・二〇二二年）、「漢代の女性秩序——命婦制度淵源考」（『東方学』一〇八輯、二〇〇四年）、「漢代における経学講論と国家儀礼——祝典礼の成立に向けて」（『東洋史研究』七四・二〇一六年）などがある。

目次

- 序言◎伴瀬明美
〔導論〕中国の後宮◎保科季子
Ⅰ「典型的後宮」は存在するのか——中国の後宮
漢代の後宮——二つの嬰兒殺し事件を手がかりに◎保科季子
六朝期の皇太妃——皇帝庶母の礼遇のひとこま◎三田辰彦
北魏の皇后・皇太后
——胡漢文化の交流による制度の発展状況◎鄭雅如（翻訳・榊佳子）
唐皇帝の生母とその追号・追善◎江川式部
〔コラム〕唐代の宦官◎高瀬奈津子
契丹の祭山儀をめぐって
——遊牧王朝における男女共同の天地祭祀◎古松崇志
〔コラム〕宋代における宦官の一族◎藤本猛
明代の後宮制度◎前田尚美
清代后妃の晋封形式と後宮秩序◎毛立平（翻訳・安永知晃）
Ⅱ継受と独自性のはざまで——朝鮮の後宮
百濟武王代の善花公主と沙宅王后◎李炳鎬（翻訳・橋本繁）
新羅の後妃制と女官制◎李炫珠（翻訳・橋本繁）
高麗時代の宦官◎豊島悠果
朝鮮時代王室女性の制度化された地位と冊封◎李美善（翻訳・植田喜兵成智）
〔コラム〕恵慶宮洪氏と『ハンジュンノク（閑中録）』◎韓孝延（翻訳・村上菜菜）
〔コラム〕国立ハンケル博物館所蔵品からみた朝鮮王室の女性の生活と文化——教育と読書、文字生活などを中心に◎高恩淑（翻訳・小宮秀陵）
Ⅲ逸脱と多様性——日本の後宮
皇后の葬地——合葬事例の日中比較を中心に◎榊佳子
〔コラム〕日本古代の女官◎伊集院葉子
日本朝鮮の金石文資料にみる古代の後宮女性◎稲田奈津子
〔コラム〕光明皇后の経済基盤◎垣中健志
摂関期の後宮◎東海林亜矢子
中世前期の後宮——后位における逸脱を中心に◎伴瀬明美
〔コラム〕將軍宗尊親王の女房◎高橋慎一郎
中世後期の朝廷の女官たち——親族と家業から◎菅原正子
足利將軍家における足利義教御台所正親町三条尹子◎木下昌規
近世の後宮◎久保貴子
「三王」の後宮——近世中期の江戸城大奥◎松尾美恵子
Ⅳ広がる後宮——大越・琉球
中世大越（ベトナム）の王権と女性たち◎桃木至朗
古琉球の神女と王権◎村井章介

書名		部数
東アジアの後宮 [アジア遊学 283]		
伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 [編]		
定価 3,520 円(本体 3,200 円) A5判・並製カバー装・344頁 ISBN978-4-585-32529-1 C1320 2023年6月刊行		部
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）		

黄泉の国との契約書

定価 四、一八〇円（税込）
（本体三、八〇〇円）

B5判並製・二四〇頁・フルカラー
二〇二三年三月刊行
ISBN978-4-585-32030-2 C1020

東アジアの 買地券

東アジアの墓葬遺構からは、

「買地券」と呼ばれる遺物が発見されることがある。

これは死者や遺族が、墓地を正当に購入したことを示す

売買契約書であり、その多くは冥界の神々と結んだ契約なのである。

古代中国に源を発し、

朝鮮半島や日本でもその遺例が発見されている「買地券」は、

時代・地域により様々な特徴を有し、

東アジアの文化交流史を考えるうえで貴重な資料である。

中国・朝鮮・日本に残る特色ある事例を

多数のカラー図版とともに紹介、

詳細な解説と釈文・現代語訳によって「黄泉の国との契約書」という

不思議な存在を読み解く初めての書。

図版点数二二〇点以上！

〔編著〕

稲田奈津子

（いなだ・なつこ）＝東京大学史料編纂所准教授、
専門は日本古代史・東アジア比較文化史。

王海燕

（ワン・ハイエン）＝浙江大学歴史学院教授、
専門は日本古代史・日中文化交流史。

榊佳子

（さかき・けいこ）＝東京大学史料編纂所学術専門職員、
専門は日本古代史。

目次

前言／凡例

各論で取り上げた買地券の分布図

●中国

建初元年買山地題記

劉元台買地券

会稽亭侯買地券

COLMAN◎買地券にみえる神々

繆承買地券

天冊元年買地券

朱曼妻薛氏買地券

羅健夫妻買地券

羅道訓買地券

COLMAN◎胡珍妻朱氏四娘墓

馬氏夫人墓誌

COLMAN◎江蘇省蘇州市新出の呉越北宋買地券二点

蔡氏買地券

丘氏兄弟買地券

COLMAN◎多彩な買地券

●朝鮮

武寧王買地券

閼祥買地券

世賢買地券

兎山郡買地券

COLMAN◎金柱臣墓域の埋誌

●日本

矢田部益足買地券

宮ノ本遺跡出土買地券

COLMAN◎采女氏埜域碑と墓域の占有

●総論

虚実が交錯する古代中国の買地券……王

買地券文化と朝鮮・日本……稲田奈津子

海燕

図版出典一覧／参考文献一覧／謝辞／収載資料一覧

書名		冊数
黄泉の国との契約書 東アジアの買地券 稲田奈津子・王海燕・榊佳子〔編著〕		
定価 4,180円・本体3,800円 A5判並製カバー装・240頁・フルカラー 2023年3月刊行 ISBN978-4-585-32030-2 C1020		冊
ご送付先ご住所（通信欄）		

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

モノと権威の 東アジア交流史

鑑真から清盛まで

シャルロット・フォン・ヴェアシュア〔著〕

巻頭言◎鈴木靖民（國學院大學名誉教授）

対外交易の歴史的意義を探る古代東アジアにおいて、
対外交易はごく限られた機会のものではあったが、
それだけに一層、各国の政治や
文化の形成に大きなインパクトを与えてきた。
特に日本においては、
中国や朝鮮半島から伝わる最新の情報やモノは、
権威の象徴としても重要な位置を占めるものであった。
「モノ」「ヒト」「情報」など諸種の要素を
仔細に検討することで、
政治・経済・文化にわたる重層的な「対外交易」の
実態と歴史的意義を照射。
物質文化史・対外関係史・農業史・比較史など
多角的な視点を駆使し、
従来の歴史理解へ新たな観点を提示してきた著者による、
長編の書き下ろしを含む最新論集。

著者プロフィール

シャルロット・フォン・ヴェアシュア（Charlotte von Verschuer）

フランス・高等研究院歴史学部教授。専門は日本古代・中世の国際関係と物質文化の歴史。日本の経済史を対外貿易と国内生活の二面から研究している。
著書に『モノが語る日本対外交易史——七—十六世紀』河内春人訳、藤原書店、二〇二二、『フランス語著書に「八—九世紀の日中関係」（九八五）「平安時代と五穀文化」（二〇〇三）、「史料の賛辞：古代から近世の日本を考える」（共編著、二〇〇四）、「欧文日本古代史料解題辞典」（共編著、二〇〇六）などがある。

定価 五、二八〇円（税込）
〔本体価格四、八〇〇円〕四六判・上製カバー装・三六八頁
ISBN978-4-585-32022-7 C3020
二〇二三年五月刊行

- 第一章 九世紀日本の情報輸入体制
第二章 帰国後の遣唐使の待遇について
第三章 唐・宋における日本蓬萊観と水銀輸入について
第四章 水銀と虎の皮——日渤海関係における特産品
第五章 鑑真と香薬
第六章 遣唐使と大安寺
第七章 平安時代と唐物
第八章 平清盛と唐船
第九章 平氏政権の貿易体制
補論1 地中海文明と古代ペルシャ、そして日本の唐物
補論2 仏教東流とキリスト教の西流
——東シナ海と地中海の比較
コラム 寧波の商人寄進石碑をめぐって
初出一覧・謝辞
解説◎河内春人（関東学院大学准教授）
索引

書名

モノと権威の東アジア交流史

鑑真から清盛まで

シャルロット・フォン・ヴェアシュア〔著〕

部数

定価5,280円（本体価格4,800円）

四六判・上製カバー装・368頁

2023年5月刊行

ISBN978-4-585-32022-7 C3020

部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

列島の中世地下文書

じげもんじょ

諏訪・四国山地・肥後

アジア遊学 282

春田直紀 [編]

重なり、広がり、
つながる文書群中世の地域社会(地下)で生成され
機能した「地下文書」。

東国諏訪の社家、四国山地の名主、

九州肥後の大百姓・殿原など

地域も伝来主体も異なる文書群を検討するなかで、

中世地下文書の多様性を列島規模で把握しつつ、

文書群がタテ・ヨコの関係で集積され

伝来していった様相を原本調査の

成果をふまえて描き出す。

さらに、金石文や仏像銘文といった

紙以外の文字史料も

地下の観点から再検討し、

地下文書論の地平を広げる。

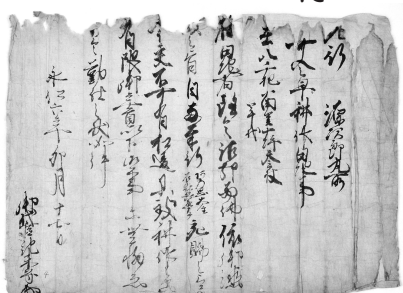
【編者紹介】

春田直紀

(はるた・なおき)

熊本大学大学院人文社会科学部教授。専門は日本中世史(生業論・史料論)。

主な著書に『日英中世史料論』(編著、日本経済評論社、二〇〇八年)、『中世地下文書の世界——史料論のフロンティア』(編著、勉誠出版、二〇一七年)、『日本中世生業史論』(岩波書店、二〇一八年)などがある。



【目次】

序論・中世地下文書の階層性と地域性……春田直紀

第一部 ● 諏訪

諏訪上社社家の文書群と写本作成……村石正行

大祝家文書・矢島家文書……岩永紘和

守矢家文書……金澤木綿

守矢家文書における鎌倉幕府発給文書

——原本調査による正文の検証……佐藤雄基

戦国期諏訪社の祭祀・造宮と先例管理

——大名権力と地下文書の融合……湯浅治久

第二部 ● 四国山地

四国山地の中世地下文書

——記載地名の分布と現地比定……楠瀬慶太

「柳瀬家文書」の成立過程……村上絢一

土佐国大忍荘の南朝年号文書

——「行宗文書」正平十一年出雲守時奉書を中心に……荒田雄市

菅生家文書——阿波国に伝わった南朝年号文書……池松直樹

南朝年号文書研究の新視点——「後南朝文書」との比較から……呉座勇一

中世阿波の金石文から地下文書論を考える……菊地大樹

第三部 ● 肥後

肥後の地下文書——肥後国中部を中心に……廣田浩治

中世肥後の大百姓文書——舩田文書と小早川文書……春田直紀

「免田文書」の基礎的考察……小川弘和

人吉盆地の地下文書と景観復元——免田文書と段丘・洪水・棚田……似鳥雄一

『野原八幡宮祭事簿』について……柳田快明

地域史料としての仏像銘文

——熊本市・立福寺跡観音堂の

大永二年銘千手観音菩薩立像をめぐる……有木芳隆

定価 二,二〇〇 円(税込)
本体 三,〇〇〇 円A5判並製カバー装・二七二頁
二〇二三年五月刊行
ISBN978-4-585-32528-4 C1321

書名	部数
列島の中世地下文書 [アジア遊学 282] 諏訪・四国山地・肥後 春田直紀 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

定価 3,300 円(税込)・本体 3,000 円

A5判並製カバー装・272頁
2023年5月刊行

ISBN978-4-585-32528-4 C1321

近世日本のキリシタンと異文化交流

大橋幸泰 [編]

十六世紀に日本にもたらされた

キリスト教とヨーロッパの文化・思想は、既存の文化や思想に

どのようなインパクトをもたらしたのか。

日本のキリシタン禁制はどのように始まり、どのように終わったのか。

中国や朝鮮、東南アジアの布教は

どのように展開し、日本布教とどう関わったのか。

東アジア世界におけるキリシタンをめぐる

異文化の融合と摩擦の問題を、

内外の一次史料を用いて

日本史・東洋史・西洋史・科学史・思想史・

言語学の各方面から検討し、

中世末期から近世期の

新たな時代像の構築を目指す。

【編者紹介】

大橋幸泰

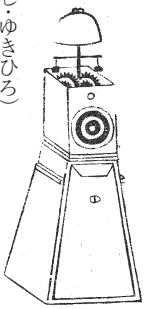
(おおはし ゆきひろ)

早稲田大学教育・総合科学学術院教授。専門は日本近世史。

主な著書に『潜伏キリシタン 江戸時代の禁教政策と民衆』講談社、二〇一四年、講談社学術文庫に

二〇一九年再刊、論文に「近世日本の民衆史研究―民衆運動・政治思想・身分認識をめぐる議論

から属性論の射程を展望する」(『民衆史研究』二〇二二・二〇二三年)などがある。



自鳴鐘

どけい

『和漢三才図会』
国文学研究資料館蔵
CC BY-SA 4.0

アジア遊学
284

【目次】

〈序文〉近世日本のキリシタンと異文化交流……大橋幸泰

第一部 ● キリシタンの文化と思想

キリシタンと時計伝来……平岡隆二

信徒国字文書のキリシタン用語

——「ばす」とる(羊飼い)を起点として……岸本恵実

日本のキリスト教迫害下における「偽装」理論の神学的源泉……折井善果

〈史料紹介〉「キリシタンと時計伝来」関連史料……平岡隆二

第二部 ● 日本を取り巻くキリシタン世界

布教保護権から布教聖省へ

——バチカンの日本司教増置計画をめぐって……木崎孝嘉

ラインサーン王国に至る布教の道

——イエズス会日本管区による東南アジア事業的一幕……阿久根晋

パリ外国宣教会によるキリシタン「発見」の予見

——琉球・朝鮮・ベトナム・中国における日本再宣教への布石……牧野元紀

〈史料紹介〉南欧文書館に眠るセバステイアン・ヴィエイラ関係文書

——所蔵の整理とプロクラドル研究の展望……木崎孝嘉

第三部 ● キリシタン禁制の起点と終点

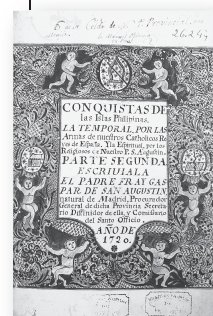
最初の禁教令——永禄八年正親町天皇の京都追放令をめぐって……清水有子

潜伏キリシタンの明治維新……大橋幸泰

長崎地方におけるカトリック信徒・非カトリック信徒関係の諸相

——「日本習俗に関するロケ・ニュー師の手記」(一八八〇年頃)

を中心に……マルタン・ノゲラ・ラモス



『フィリピン諸島の征服』
第二部 稿本標題紙

定価二、〇八〇円(税込)
本体一、八〇〇円

A5判並製カバー装・二五六頁
二〇二三年七月刊行
ISBN978-4-585-32530-7 C1320

書名	部数
近世日本のキリシタンと異文化交流 [アジア遊学284] 大橋幸泰 [編]	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価3,080円(税込)・本体2,800円
A5判並製カバー装・256頁
2023年7月刊行
ISBN978-4-585-32530-7 C1320

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

書物の時代の宗教

日本近世における神と仏の変遷

岸本 覚・曾根原理 [編]

アジア遊学 287

近世宗教文化の

新たなイメージを開拓する。

日本近世の宗教は、

出版文化の発達により大きな転換を迎える。

中世までの写本の時代と異なり、

木版・整版による出版が商業的に発達し、

明治以降の洋式活字出版の時代とも異なる、

一つの時代が形成されたのである。

そのような流れの中で、

仏神のイメージや宗教環境はどのように変化したのか。

民間のカミ、為政者たちが崇める仏神、

そして東照宮を頂点とする国家の宗教体系は、

近世社会とどのような関わりを持ったのか。

書物との関係を射程に入れて、

社会情勢や文化現象の中で揺れ動く宗教の姿を読み解く。

編者プロフィール

岸本 覚 (さしもと さとし)

鳥取大学教授。専門は日本史。主な著書論文に『加知弥神社飯田家資料稿15』(共著、鳥取大学地域学部、二〇二二年)、『旧鳥取藩士安達清一郎関係資料目録』(共著、鳥取県立博物館、二〇二二年)、『表彰』からみた19世紀の日本社会——鳥取を事例として(『歴史評論』84号、二〇二〇年十一月)などがある。

曾根原理 (そねはら さとし)

東北大学助教。専門は日本近世思想史。主な著書に『徳川家康神格化への道』(吉川弘文館、一九九六年)、『神君家康の誕生』(吉川弘文館、二〇〇八年)、『徳川時代の異端的宗教』(岩田書院、二〇一八年)などがある。

目次

序文◎岸本 覚・曾根原理

I 近世の書物と宗教文化

近世人の死と葬礼についての覚書◎横田冬彦
森徹塾『護法資治論』について◎W・J・ポート
六想慈周と近世天台宗教団◎曾根原理
〔コラム〕おみくじと御籤本◎若尾政希

II 『大成経』と秘伝の世界

禅僧たちの『大成経』受容◎佐藤俊晃
『大成経』灌伝書・秘伝書の構造とその背景
——潮音道海から、依田貞鎮(徧無為)・平繁仲を経て、
東嶺円慈への灌伝伝受の過程に◎M・M・E・バウンステルス
増穂残口と『先代旧事本紀大成経』◎湯浅佳子
〔コラム〕『大成経』研究のすゝめ◎W・J・ポート

III カミとホトケの系譜

東照大権現の性格
——「久能山東照宮御奇瑞覚書」を事例として◎山澤 学
修正会の乱声と鬼走り
——大和と伊賀のダダ押しをめぐる◎福原敏男
人を神に祀る神社の起源——香椎宮を中心として◎佐藤眞人
〔コラム〕東照大権現の本地◎中川仁喜

IV 近世社会と宗教儀礼

「宗門檀那請合之掟」の流布と併載記事◎朴澤直秀
因伯神職による神葬祭(諸国類例書)の作成と江戸調査◎岸本 覚
孝明天皇の「祈り」と尊王攘夷思想◎大川 真
〔コラム〕二つの神格化◎曾根原理

定価 3,080 円(本体 2,800 円)

A5判・並製カバー装・256頁
ISBN978-4-585-32533-8 C1314
2023年8月刊行

書 名	部 数
書物の時代の宗教 [アジア遊学 287] 日本近世における神と仏の変遷 岸本 覚・曾根原理 [編]	部
定価 3,080 円(本体 2,800 円) A5判・並製カバー装・256頁 ISBN978-4-585-32533-8 C1314 2023年8月刊行	
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

日本古文書学会編集

古文書研究

第95号

2023年6月

定価 4,180 円(税込)・本体 3,800 円

B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁

ISBN978-4-585-32405-8 C3321

2023年6月刊行

歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。
その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

目次

カラー口絵

論文

永禄・天正期九州の争乱と秋月種実 中村知裕

研究ノート

五十一という神話：御成敗式目と十七条憲法 佐藤雄基

北畠親房の〈僭上〉について 村井章介

「斑鳩旧記類集」からみる南北朝期室町幕府の謀書判定手続き 山本康司

中世後期法隆寺——室町幕府・在京守護間の交渉の実態と変遷

——「京都寺官」に注目して—— 竹内惇人

豊臣政権下における長岡藤孝の動向——島津氏交渉を中心に—— 谷橋啓太

史料紹介

「地藏院殿御灌頂記」について 伴瀬明美

追悼文

柴辻俊六先生のお仕事と思い出——戦国古文書研究の確立—— 須藤茂樹

古文書めぐり

成城大学民俗学研究所の所蔵資料 林 洋平

研究余滴

徳川家康の左京大夫任官はいつか 遠藤珠紀

書評と紹介

黒田洋子著『正倉院文書の一研究——奈良時代の公文と書状——』 山本幸男

水野嶺著『戦国末期の足利將軍権力』 久野雅司

萩原大輔著『異聞 本能寺の変——『乙夜之書物』が記す光秀の乱』 柴 裕之

渡邊佳子著『近代日本の統治機構とアーカイブズ——文書管理の変遷を踏まえて——』 清水善仁

尚友倶楽部・原口大輔・西山直志編『松本學日記[昭和十四年～二十二年]』 官田光史

日本古文書学会第五十四回学術大会要旨／令和四年度新指定文化財紹介／彙報

口絵解説

平重盛書状 一通 高梨真行

英文レジュメ

書 名	部 数
古文書研究 第95号 日本古文書学会 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

国宝「三十帖冊子」

さんじゅうじょう
さうし

修理から見えてきたもの

最新の仏教学を学ぶために唐に渡った弘法大師空海が、当地の仏教經典・儀軌類を書写し、日本に隨身秘藏してきた冊子本、国宝「三十帖冊子」。第六世守覚法親王の時代より京都・仁和寺にて尊ばれ、伝持されてきた同書は、空海の入唐中の学問のありかたを伝える密教将来の至宝として、また、空海や橘逸勢ほか、多くの唐の写経生がその書写に関わり、かつ冊子のかたちとして最も古い装訂とされる粘葉装（ちゅうようそう）の日本最古の例として、文化財としても特筆すべき意義を有している。

国宝「三十帖冊子」は、どのように守られ、伝えられてきたのか。

六か年の歳月をかけて行われた修理の全容と、それによって見えてきた新知見を多くのカラー図版とともに紹介。さらには、「三十帖冊子」の伝来と流転、奈良朝經典訓読や漢籍訓読の諸問題、空海の学問と書、

高解像度デジタル顕微鏡による料紙分析と写本学とのコラボレーション、文化財修理のこれまでとこれから等、多角的な観点から「三十帖冊子」を把握する決定版。

掲載図版点数三〇〇点超！

刊行にあたって 総本山仁和寺門跡真言宗御室派管長 瀬川大秀
序言——本書の概要 宇都宮啓吾

第一部 修理・書誌篇

国宝「三十帖冊子」修理報告——修理の概要と調査報告・株式会社松鶴堂
「三十帖冊子」の修理を振り返って・株式会社松鶴堂（書跡担当課 森川洋子）
「三十帖冊子」の料紙に残された痕跡の伝えるもの
——保存修理の視点から 鈴木裕
装訂や料紙から見た国宝「三十帖冊子」 赤尾栄慶
コラム 空海の書——唐からの贈り物 銅島稲子
「三十帖冊子」を飾る染織品 山川曉
料紙を観る——写本学と光学的調査からのアプローチ
石塚晴通・赤尾栄慶・江南和幸・岡田至弘
コラム 文化財情報プラットフォーム
——金剛寺蔵「梵漢普賢行願讃」をめぐる 宇都宮啓吾

第二部 典籍篇

「三十帖冊子」の借覧と返納をめぐる 武内孝善
「三十帖冊子」の仁和寺移動と仁和寺伝持の歴史 朝川美幸
空海将来経論の書写をめぐる
——「三十帖冊子」に関連して 苦米地誠一
仁和寺蔵「三十帖冊子」の訓点から
観た漢籍訓読の一問題 宇都宮啓吾
典籍保存修理の歩み——昭和から令和へ 鈴木裕

定価 二二、二〇〇円（税込）

本体 二二、〇〇〇円（+税）

二〇二三年二月刊行

A5判上製カバー装・三三六頁（カラー一六〇頁）

ISBN978-4-585-31012-9 C3015



総本山仁和寺 監修 宇都宮啓吾 編

（うつのみや・けいご）1966年生まれ。大阪大谷大学文学部教授。専門は日本語学、仏教典籍学。著書に『四天王寺聖教の世界』（四天王寺宝物館令和三年秋季特別展図録）（監修・執筆、四天王寺勧学部、二〇二二年）などがある。

書名		冊数
国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの 総本山仁和寺＝監修 宇都宮啓吾＝編		
定価 13,200円（税込） 本体12,000円（+税） A5判上製カバー装・336頁（カラー160頁） 2023年11月刊行 ISBN978-4-585-31012-9 C3015		冊
ご送付先ご住所（通信欄）		

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

重要文化財

東福寺

ごひやく
らかんす

五百羅漢図

修理と研究

もくじ

刊行にあたって 大本山東福寺 管長……原田融道

図版編

修理後写真／東福寺本・根津美術館本

第五〇号写真／エルミタージュ美術館本

修理工程写真／東福寺本・根津美術館本

五百羅漢図下絵写真／東福寺

第五〇号復元模写写真

各論編

保存修理事業の概要

明兆筆五百羅漢図序論……綿田 稔

五百羅漢図軸木銘文にみる制作と修理の諸問題……石川登志雄

明兆筆五百羅漢図をめぐる諸問題……高橋真作

東福寺の再興と明兆……森 道彦

羅漢供祭文について……日種真子

五百羅漢図修理の特殊性——画期的な合同修理事業を振り返る……岡 岩太郎

コラム編

1 修理前調査にみる現状と修理の要点……竹上幸宏

2 本紙表面からの補綴方法の模索……伊加田剛史

3 解体修理における肌裏紙の除去と永徳二年銘文の発見……小島知英

4 新肌裏紙の色調整について……佐味義之

5 五百羅漢図の復元模写……富澤千砂子

資料編

五百羅漢図軸木銘文集

五百羅漢図関係史料

五百羅漢図修理関係年表

五百羅漢図修理一覧

編集後記……石川登志雄

石川登志雄 〔編〕

（いしかわ・としお）一九五五年生まれ。京都府教育委員会文化財保護課技術職員、京都造形芸術大学芸術学部歴史遺産学科准教授、京都産業大学文化学部教授を経て、現在、同客員教授。主な著書に『平等院鳳凰堂と浄土院』監修及び執筆（二〇一二年）など。



「画聖」と称された
室町期を代表する
絵仏師・明兆の
超大作「五百羅漢図」。

大本山東福寺所蔵の四十七幅及び根津美術館所蔵の二幅についての十六年の長期にわたる保存修理の成果、さらに長らく所在不明とされてきたが、近年、ロシア・エルミタージュ美術館に所蔵されていることが明らかになった第五〇号を大判のカラー図版により掲載。また、調査の過程により見出された新知見、装潢修理における試行錯誤の成果を示した論考・コラム、諸種の資料も収載し、これまでに全貌が未紹介であった東福寺五百羅漢図の研究に重要な材料を提供する。

日本文化史・美術史・仏教史・文化財学をはじめ諸分野に益する瞠目すべき一書！

定価二四、二〇〇円（税込）

本体二二、〇〇〇円（＋税）

二〇二三年十月刊行

B4判変型上製カバー装・二七六頁

ISBN978-4-585-37010-9 C3071

書 名	冊数
重要文化財東福寺五百羅漢図 ——修理と研究 石川登志雄＝編	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価24,200円(税込)

本体22,000円(+税)

2023年10月刊行

B4判変型上製カバー装・276頁

ISBN978-4-585-37010-9 C3071

株式会社勉誠社
(勉誠出版)

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

永平廣録大全

えいへいこうろく・たいぜん

『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究 ならびに解題・関連資料集成

道元禅師の演法説示が収録されている『永平廣録』。道元の死後、門下の真摯な従者たちによって編集された『永平廣録』は伝統的な禅の語録の形態をとり、漢文体によって構成されている。本書では、原本『祖山本 永平廣録』（全十巻）の正確な「訓読」と「訳」を提供する。また、その語句に対する「語義注釈」、「出典考証」、各項の解説、さらに語義の詳細にわたる「補注参究」、本書に関連する「基本的原典」等の関連書ならびに関連項目の小論・解題等も収載した決定版。

{ 呈・内容見本 }

詳細情報を掲載した
パンフレットをご用意しております

定価 71,500円(税込)

本体65,000円(+税)

2023年11月刊行

B5判・上製・全八巻(分売不可)・総3,000頁超

ISBN978-4-585-31017-4 C3015

本書の特徴

- 原文テキストと、その訓読・訳・語義・出典考証・補注参究を収録。
- 原典に忠実な正確な訓読を提供。禅門の慣習を考慮し、古来の訓み・言い回しを記載。漢字は当用漢字・総ルビ・現代仮名遣いとした。引用・会話は「」・「ト書」も併用した。
- 理解を助ける現代語訳を掲載。
- 「語義」では、難解な語句・仏教用語・公案の類を注釈。僧名は、その生卒年代と師資関係を掲載。
- 「出典考証」では、収録された成語の出典を考証。道元が披見しうる妥当性、『永平廣録』本文との総合的な検証から出典を採択した。
- 補注参究では、「語義」に挙げられた項目をより深い考察を加える。
- 最終巻に最終巻には「祖山本 永平廣録」全原典を掲載。欠損字は他のテキストを参照した補った。
- 各項目には通し番号を付し、訓読・訳・語義・出典考証・補注参究などの項目間を参照する際の便を図った。

大谷哲夫

〈編著〉

編著者紹介

一九三九年東京都生まれ。早稲田大学一文・同大学院修了。駒澤大学大学院満期退学。曹洞宗僧侶(市ヶ谷長泰寺住職)・仏教学者(専門は禅)。駒澤大学元総長(第二十八代)・駒澤大学元学長(第二十九代)・都留文科大学元理事長・東北福祉大学前学長。主要著書に、『道元 永平廣録・上堂』選(講談社学術文庫、二〇〇五年)、『道元 宝慶記』(講談社学術文庫、二〇一七年)など多数。

書 名

永平廣録大全 大谷哲夫 〈編著〉

『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究
ならびに解題・関連資料集成

定価 71,500円(税込)

本体65,000円(+税)

2023年11月刊行

B5判・上製・全八巻(分売不可)・総3,000頁超

ISBN978-4-585-31017-4 C3015

冊数

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

物語る仏教絵画

童子・死・聖地

◎ 目次

はじめに

序 神を見ることと描くこと——石清水八幡宮の事例を中心に

第一部 仏画と垂迹画における童子像

——神の家の小公達

- 一 粉河寺の童男行者信仰——フリア美術館蔵伝聖徳太子修業像を中心に
 - 二 春日の赤童子信仰
 - 三 童形の日吉十禪師像
 - 四 熊野曼荼羅の切目王子——神々のヒエラルキー
 - 五 越前系の白山垂迹曼荼羅——遊行寺本と国上神社本
- 第一部まとめ——童子像は借用され、読み替えられ、まとめられる

第二部 死をめぐる図像

- 一 ボストン美術館本菩提樹像は何を表すものか
 - 二 法華寺蔵阿弥陀三尊及童子図はどのように掛けられたか
 - 三 金戒光明寺蔵地獄極楽図屏風はどのように使われたか
 - 四 聖衆来迎寺本六道絵「天道」幅の主人公は誰か
 - 五 補論 天人から天女へ——なぜ五衰の天人が女性とされるようになったのか
 - 六 聖衆来迎寺本六道絵人道不浄相幅はなぜ女性なのか
 - 七 九州国立博物館本九相図巻の噺相は何に基づいたか
 - 八 長岳寺蔵六道十王図に天道は描かれていないのか
 - 九 斜め構図の兜率天曼荼羅図がなぜ描かれたのか
- 延命寺本と根津美術館本を中心に
- 第二部まとめ——鎌倉時代、死の文化は多様に展開する

第三部 中国の靈山信仰から日本へ

——観音と靈地信仰

- 一 長沙馬王堆漢墓出土の帛画はなぜ「T」字形状か
 - 二 須彌山石とは何を表したのか——水源伝説としての崑崙山
 - 三 補論 日本における三山信仰——三山もしくは三峯という構成の根拠は何か
 - 四 水月観音図の創作にどのような先行図様が引用されたか
 - 五 フリア本地蔵十王図と伏魔陀山地蔵図様はどのように成立したか
 - 六 雲乗の十一面観音図様とはどのような意味なのか
 - 七 宮曼荼羅になぜ参詣人が出現したか——普陀山図の影響を考える
 - 八 補論 粉河寺蔵「南海名山普陀勝境圖」と中国における普陀山図の展開
- 第三部まとめ——現実の靈地に伝説の聖地を重ねる

おわりに

図版出典一覧／初出一覧／索引

山本陽子 [著]

なぜ特異な
仏画が
作られたのか

日本中世において数多く制作された仏教絵画のなかで、類例のない図様を持ち、制作当時とは異なる名称で呼ばれたり、別の信仰の文脈で語られてきたりした経緯をもつ、特異な仏画が存在する。

これらはどのような意図で制作され、何を意味しているのか。そして、なぜ多種多様な形態や伝説を持つているのか。とりわけ「童子・死・聖地」にまつわるこれらの仏画や垂迹画を丹念に読み解き、図像的特徴や成立背景、制作意図を明らかにする。

さらに、これらの仏教絵画が制作された時点における、伝承や説話からの影響関係、受容の様相を探る。

美術史学・説話文学・民俗学研究など隣接諸学に寄与する研究成果。

◎ 著者プロフィール

山本陽子（やまもと・ようこ）

明星大学教育学部教授。専門は日本中世絵画史。

著書に『絵巻における神と天皇の表現——見えぬように描く』（中央公論美術出版、二〇〇六年）、『絵巻の図像学——「絵ぞら」との表現と発想』（勉誠出版、二〇一二年）、『図像学入門——疑問符で読む日本美術』（勉誠出版、二〇一五年）、『はじめの日本美術史』（山川出版社、二〇一八年）などがある。

図版289点掲載！

定価 一、〇〇〇円（税込）
本体 一〇、〇〇〇円（＋税）
二〇二三年十月刊行
A5判上製カバー装・六一六頁
ISBN978-4-585-37011-6 C3071

書名	部数
物語る仏教絵画 童子・死・聖地 山本陽子 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

定価 11,000 円（本体 10,000 円）

A5判・上製カバー装・616頁
ISBN978-4-585-37011-6 C3071
2023年10月刊行

日本人の読書

古代・中世の学問を探る

佐藤道生 [著]

人びとは何を読み、どのように学んできたのか――

古代・中世の日本において、書物を読み、解釈し、伝えていくことは、限られた人びとにのみ許される特権的な営みであった。

特に中国大陸ないしは朝鮮半島経由で伝えられた漢籍（漢語で書かれた書物）は、国家を支える政治や法、

さらには思想や文化体系を伝える最先端のものとして重要視された。

中国の文化全般を学ぶことを目的とした

これらの学問――漢学――は、国家の制度のなかにも位置付けられ、

それを担う家では、書写・刊行された諸種の漢籍を入手し、独自の学問を形成していった。

書物に残された注釈の書き入れ、来歴を伝える識語、

古記録や説話に残された漢学者の逸話など、

漢籍の読書の高まりをいまに伝える諸資料から

古代・中世における日本人の読書の歴史を明らかにする。

本書ではじめてフルカラー公開する資料

『清涼山伝』○『文選集注』巻七断簡○『文選集注』巻百十一断簡

金澤文庫本『文選集注』巻六十一残簡○『論語』清原業賢書写・加点半

慶應義塾図書館蔵『論語』天文版清原枝賢加点半

『佐保類切』『施氏七書講義』断簡○『佐保類切』『施氏七書講義』残簡

『道德経切』『老子道德経』断簡

著者プロフィール

佐藤道生（さとう・みちお）

一九五五年生まれ。慶應義塾大学名誉教授。専門は古代・中世日本漢学。主な著書に『平安後期日本漢文学の研究』（笠間書院、二〇〇三年）、『三河鳳来寺旧蔵唐暦二年書写和漢朗詠集影印と研究』（勉誠出版、二〇一四年）、「句題詩論考――王朝漢詩とは何ぞや」（勉誠出版、二〇一六年）、「玉葉」に見られる課試制度関連記事の検討」（『変革期の社会と九条兼実――「玉葉」をひらく』勉誠出版、二〇一八年）などがある。

目次

カラー口絵

◎本篇

第一章 古代・中世日本人の読書

第二章 日本に現存する漢籍古写本――唐鈔本はなぜ読み継がれたのか

第三章 古代・中世漢文訓読史

第四章 平安貴族の読書

第五章 藤原道長の漢籍蒐集

第六章 藤原兼実の読書生活――『素書』と『和漢朗詠集』

第七章 養和元年の意見封事――藤原兼実「可依変異被行攘災事」を読む

第八章 『論語疏』中国六世紀写本の出現

第九章 平安時代に於ける『文選集注』の受容

第十章 金澤文庫本『春秋経伝集解』、奥書の再検討

第十一章 室町後期に於ける『論語』伝授の様相

――天文版『論語』の果たした役割

第十二章 清原家の学問と漢籍

――『論語』を例として訓点と注釈書との関係を考える

第十三章 吉田家旧蔵の兵書

――慶應義塾図書館蔵『七書直解』等の紹介を兼ねて

第十四章 『佐保切』追跡

――大燈国師を伝称筆者とする書蹟に関する考察

第十五章 伝授と筆耕――呉三郎入道の事績

第十六章 『古文孝経』永仁五年写本の問題点

第十七章 猿投神社の漢籍古写本

――『史記』『春秋経伝集解』の書写者を探る

◎附篇

第十八章 『朝野群載』巻十三の問題点

第十九章 日本漢学史上の句題詩

第二十章 『本朝麗藻』所収の積算詩――句題詩の変型として

第二十一章 藤原有国伝の再検討

第二十二章 大江匡房と藤原基俊

第二十三章 大江匡房の著作と『新撰朗詠集』

第二十四章 平安後期の文章得業生に関する覚書

第二十五章 『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討

第二十六章 平安時代の詩宴に果たした謝霊運の役割

あとがき／初出一覧／図版一覧／索引

貴重資料の
図版収録点数
総50超！

定価 13,200 円(本体 12,000 円)

A5判・上製カバー装・
504頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-39033-6 C3091
2023年9月刊行

書名	部数
日本人の読書 古代・中世の学問を探る 佐藤道生 [著]	部
ご送付先住所・氏名（通信欄）	

定価 13,200 円(本体 12,000 円)

A5判・上製カバー装
504頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-39033-6 C3091
2023年9月刊行

江戸時代の貸本屋

庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点

長友千代治〔著〕

江戸時代には書物を読むことのできる人びとが庶民にまで広がった。

その読書熱を支えた書物流通の拠点が貸本屋である。

読者の興味をそそり、見たことのない世界や

名所旧跡へ連れ出す書物、

隠された秘密や真相を解き明かす書物、

便利性に満ちた生活実用書――

これらをすぐに調べて手元に届けるのが貸本屋であった。

また、読書熱の高まり、

さまざまなジャンルにわたる出版文化の広がり、

近世における創作の場においても、大きな影響を与えた。

特にその浩瀚な知識を自らの作品に注ぎ込んできた

近世を代表する作家・曲亭馬琴の日記には、

近世知識人と書物の関係をまざまざと伝える、

特筆すべき内容がふんだんに含まれている。

長年にわたり諸資料を博搜してきた筆者が、

江戸時代の貸本屋の展開、そして、書物と人びとのかかわりの諸相を描き出す書籍文化史論。

まえがき

第一部 本のある風景

第二部 近世貸本屋の展開

一 貸本屋研究の意義 ●二 四民の読書熱 ●三 貸本屋の仕事

四 法制と貸本屋 ●五 作者・板元・貸本屋

六 読物流行の変遷と貸本屋 ●七 貸本屋と読者 ●まとめ

第三部 馬琴の書物探索と貸本領域

一 馬琴の書物愛 ●二 知識人との書物貸借

三 馬琴作品の愛読者たち ●四 馬琴と貸本屋

五 馬琴の本屋探書 ●六 馬琴の写本製作

七 馬琴の潤筆料と生活 ●八 愛蔵書の売却

九 馬琴の疾病 ●十 わが庭は花盛りなれど…… ●まとめ
あとがき

著者プロフィール

長友千代治（ながとも ちよじ）

昭和十一年生まれ。大阪府立図書館司書、愛知県立大学・京都府立大学・佛教大学教授を歴任。著書に、『近世貸本屋の研究』（昭和五十七年）、『近世上方作家・書肆研究』（平成六年）、『江戸時代の書物と読書』（平成十三年。以上東京堂出版）、『江戸時代の図書流通』（思文閣出版、平成十四年）、『江戸庶民の読書と学び』（勉誠出版、平成十九年）、『江戸庶民のまじない集覧』（勉誠出版、令和二年）など。編書に『江戸時代生活文化事典』（勉誠出版、平成二十年）など。



定価 五、五〇〇円（税込）（本体価格五、〇〇〇円）
A5判・上製カバー装・三三六頁・二〇二三年五月刊行
ISBN978-4-585-39029-9 C3095

書名	部数
江戸時代の貸本屋 庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点 長友千代治〔著〕	部
ご注文先ご住所（通信欄）	

定価5,500円（本体価格5,000円）
A5判・上製カバー装・336頁
2023年5月刊行
ISBN978-4-585-39029-9 C3095

100年くらい前の 本づくり

〈特集〉

定価2,200円[本体2,000円]

B5判並製フルカラー・120頁
2023年8月刊行

ISBN978-4-585-30723-5 C1000

近代日本の製本技術 編集部・編

書物学
24

維新からわずか半世紀の間に、本の形は目まぐるしく変化した――

幕末明治期、米欧からもたらされた諸種の技術や制度は、
書物の世界にも大きな影響を与え、和装本から洋装本への転換が進んでいった。
しかし、その道程が一筋縄で行くものでなかったことは、
いまに残された書物の驚くべき多彩な製本形態からも伺うことができる。
近代初期洋装本の解体調査・書誌調査から見えてくる製本の裏側、
和装から洋装へと移行する過渡期の書物のあり様を具に検討することにより、
日本における洋装本定着の端緒を明らかにする。

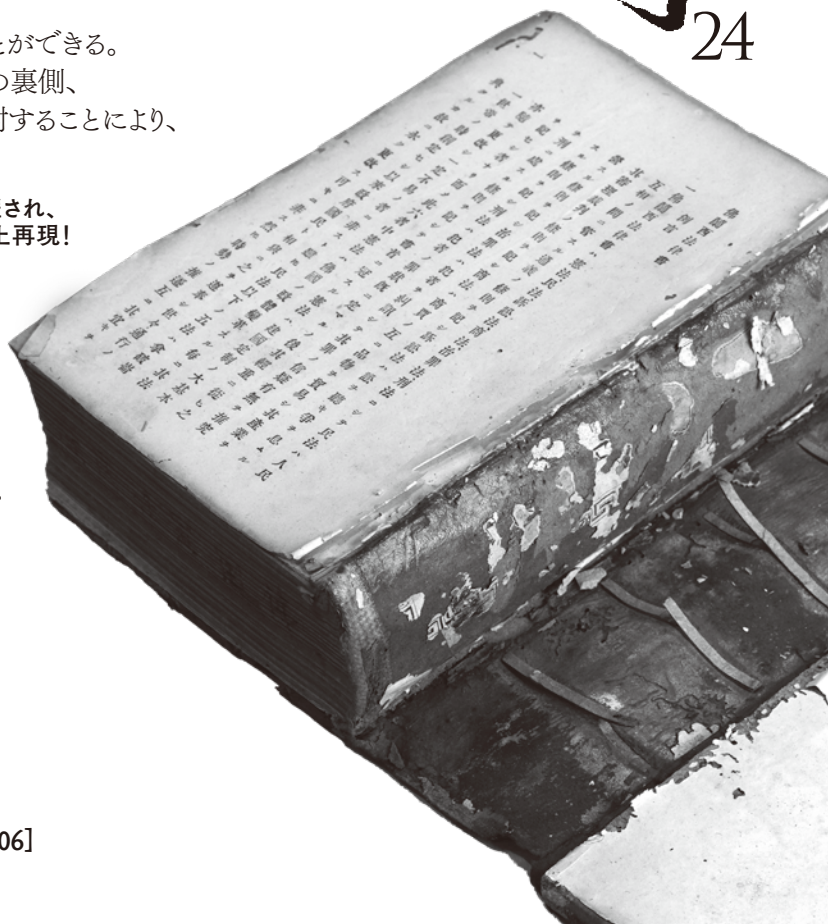
※2022年3月10日(木)～7月10日(日)に市谷の杜 本と活字館にて開催され、
コアな書物ファンに大好評を博した「100年くらい前の本づくり」展を誌上再現!

〈特集〉

総論◎100年くらい前の本づくり◎木戸雄一
年表で見る100年くらい前の本づくり
洋式製本を理解するための用語集
『仏蘭西法律書』『改正西国立志編』解体調査レポート◎木戸雄一
対談◎解体調査からみた明治初期の洋式製本◎岡本幸治×木戸雄一
『西国立志編』洋装活版本の印刷と製本◎田中葉
バターソンの洋式製本伝習についての基礎研究◎木戸雄一
「ボール表紙本」名称考◎木戸雄一
近世戯作の洋装本化◎山本和明
博物館紹介「市谷の杜 本と活字館」

〈連載〉

佐々木孝浩◎書物の声を聞く 書誌学入門[第22回]
佐藤道生◎松朋堂新収古書解題[第5回]
磯部敦◎書籍はどう動いたのか ― 近代書籍流通史料の世界[06]
雪嶋宏一◎西洋古書の遠近法[VOL.12]



書名	冊数
書物学24 100年くらい前の 本づくり 近代日本の製本技術 編集部・編	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX◎03-5215-9025

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫〈編〉

訂正新版

図説

書誌学

古典籍

を学ぶ

「書物」という

文化遺産の
継承のために

有史以来蓄積されてきた「書物」は、人間の英知・思想・思考・情感といった精神活動が、最も明瞭に集約表出されたかたちで伝承されてきた、学術文芸の遺産である。

この「書物」は、なぜここにこのように存在するのか——「書物」との真摯な対話により、過去から現在、そして未来へと連なる人間の知的営みの一端に自らリンクすることが出来るのである。

定価三、八五〇円(税込)

本体三、五〇〇円(十税)

二〇二三年一月刊行

A4判並製カバー装・総カラー・二三四頁

ISBN978-4-585-30010-6 C1500

※本書は『図説 書誌学』(二〇一〇年初版発行)の訂正新版です。訂正新版刊行に際し、誤字・脱字等の訂正を施しました。

I 書物との対話——書誌学研究の視点

はじめに——書誌学とは

第一章 本の姿

表紙の役割／紙墨の表情／書物の形／変化する書物

第二章 本の様々

漢籍と和書／漢字と仮名／文字と絵／コトバとモノ

第三章 本の誕生

誕生以前／自筆本／転写本・影写本・臨写本

第四章 本の流通

版下・校正刷り／翻刻本／摸刻本／伝写本

第五章 版本の時代

宋元版／明清版／朝鮮版・越南版／五山版・古活字版／和刻本

第六章 本の再生

付点・書入れ・批評／校合／入門書・工具書

第七章 書誌学の発達

目録学の発達／版本学の発達／考証学と近代

II 斯道文庫の五十年——これまでとこれから

・ 斯道文庫の五十年

・ 書物の収集と保全

・ 椎本文庫／浜野文庫／安井文庫／坦堂文庫／コレディエ文庫／亀井家学文庫／明治弘教社編纂所蔵書／センチユリー文化財団寄託資料／大曾根文庫／河村文庫／平岡文庫／松林桂月文庫／林泰輔

・ 自筆稿本類／ガスパルドス文庫／永島文庫／戸原文庫

・ 斯道文庫年表

・ 斯道文庫蒐書の歴史

・ 出張調査年表

・ 研究事業・研究成果・公開事業

・ 執筆一覧／書誌学用語索引

本書の特徴

昭和三五年(一九六〇)の開設以来、書誌学の専門研究所として学界をリードしてきた斯道文庫所蔵の豊富な古典籍の中から、特に書誌学的観点から重要なものを選出、豊富なカラー図版・解説を掲載することで、書誌学の理念プロセス技術を学ぶことが出来る。



書名

訂正新版 図説 書誌学 古典籍を学ぶ

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫〈編〉

冊数

定価 3,850円(税込)・本体3,500円

A4判並製カバー装・224頁
2023年11月刊行

ISBN978-4-585-30010-6 C1500

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。

東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

江南和幸・佐藤 悟・横井 孝(新コディコロジー研究会)……〈編〉

龍谷大学名誉教授

実践女子大学教授

実践女子大学名誉教授

目次

紙の レンズが ひらく 古典籍・絵画 の世界



定価4,950円・本体4,500円

A5判並製カバー装・280頁

2023年11月刊行

ISBN978-4-585-39036-7 C3090

「紙」は何を伝えているか——

古典籍や絵画、文書など、東アジアには紙を基底材とした文化財が数多く伝来している。

そこで使用される紙は、原料や加工処理により、さまざまな表情を残している。

これらの紙は、どのように作られ、選択され、流通したのか。

文学的・書誌学的・文献学的研究と、高性能デジタル顕微鏡観察や蛍光X線分析による

非破壊科学的分析研究とを一体とした「新コディコロジー」により、

紙そのものが持つ情報と、

その背景にある歴史・社会・経済・政治といった文化状況までもが明らかになりつつある。

料紙研究の最先端を伝え、また、これからの課題をも提示する貴重な一冊。

掲載図版200点超!

カラー口絵

序言 紙は文化のインフラ
——新コディコロジーの可能性

佐藤悟

第1部……「紙」を科学する視点

古写本学(Codicology)と

紙の科学的分析学(Papyrography)との邂逅

江南和幸

手漉き和紙、とくにコウゾの製造から紙へ

——デジタル顕微鏡でここまで分かる

澤山茂

デジタルマイクロスコープを用いた
和紙の表面粗さの計測とその精度

大和あすか

第2部……非破壊分析が明かす美術・古典籍

エルミタージュ美術館レンブラント銅版画コレクション用紙に

用いられた和紙の顕微鏡分析

江南和幸・岡田至弘

文理融合の研究手法でひも解く『大清聖祖仁皇帝實録』の歴史

——大紅綾本と紫綾本の紙質分析から

徐小潔

科学分析が明かす浮世絵を作り上げた紙の姿

江南和幸・岡田至弘・佐藤悟

国文学・美術とハイク分析機器

——コメ澱粉粒の反射偏光顕微鏡観察および浮世絵の色分析を例に

日比谷孟俊・澤山茂・大和あすか

第3部……非破壊分析による国文学研究

光学的観点に基づく料紙解析から

古筆切のツレを認定する際の課題と対策

舟見一哉

為家本源氏物語幻の巻の研究

——高精細デジタル顕微鏡・高解像度スキャナ・

蛍光X線分析器による紙質調査を通して

横井孝・澤山茂・日比谷孟俊

明融と打紙、そして明融本源氏物語のことなど

上野英子

あとがき

横井孝

執筆者紹介

Abstracts/ 英文要旨

書名

紙のレンズがひらく
古典籍・絵画の世界

江南和幸・佐藤 悟・横井 孝(新コディコロジー研究会)〈編〉

冊数

定価4,950円・本体4,500円

A5判並製カバー装・280頁

2023年11月刊行

ISBN978-4-585-39036-7 C3090

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。

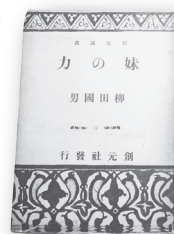
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

女性の力

から歴史をみる

柳田国男
「妹の力」論の射程

永池健二 [編]



ジェンダー論から人間論へ

女性の霊的な力や心的な影響力の意義を論じた柳田国男の「妹の力」論。この思想は戦前戦後の民俗学の主要なテーマの一つとして展開されてきたが、近年、女性史・女性学研究の立場からさまざまな批判が繰り返されている。家庭内での女性の大きな役割や、その前提となる女性の男性に対する霊的優位性を否定し、「妹の力」の歴史的存在そのものをも認めまいとする主張もある。しかし、必ずしも柳田の主張が正しく理解されてきたとはいえない。

柳田は「妹の力」にどのような意図や主張を込めたのだろうか。改めて時代状況のなかに置き直して考察するとともに、沖繩の「オナリ神」信仰や女性祭司と巫女、遊女、長崎のかくれキリシタン、中国古代の敦煌など、時代地域を異にする女性たちが担った独自の信仰の事例を多数提示し、女性の霊的な優位性を再検証する。

「妹の力」を男女の関係や現代社会のあり方を捉えなおす視座として提示するとともに、個人的な生にとって意義のある歴史の構築を目指した柳田国男の民俗学を問い直す画期的成果。

【編者紹介】

永池 健二（ながい けんじ）

柳田国男研究会会員。専門は日本文学、歌謡史・歌謡文芸の研究、柳田国男論。主な著書に『柳田国男 物語作者の肖像』（皇社、二〇一〇年）、「逸脱の唱声」歌謡の精神史（皇社、二〇一一年）、「梁塵秘抄詳解 神分編」（編著、八木書店、二〇一七年）などがある。

【目次】

序言 いま、なぜ「妹の力」なのか…永池健二

総論 「妹の力」の現代的意義を問う…永池健二

Ⅰ 「妹の力」とその時代—大正末年から昭和初年へ

「妹の力」の政治学—柳田国男の女性参政論をめぐって…影山正美
柳田国男の女性史研究と「生活改善（運動）」への批判をめぐって…吉村 風

Ⅱ 霊的力を担う女たち—オナリ神・巫女・遊女

馬淵東一のオナリ神研究—オナリ神と二つの出会い…澤井真代
折口信夫の琉球巫女論…伊藤好英
地名「白拍子」は何を意味するか
—中世の女性伝説から「妹の力」を考える…内藤浩普

「コラム」生きていく「妹の力」 1—
民俗芸能にみる女性の力—朝倉の梯子獅子の御守袋に注目して…牧野由佳

「コラム」生きていく「妹の力」 2—
江戸時代の婚礼の歪事—現代の歪事の特徴を考えるために…鈴木 一彌

Ⅲ 生活と信仰—地域に生きる「妹の力」

くまの山ハた可きともをしわけ
—若狭・内外海半島の巫女制と祭文…金田久璋

長崎のかくれキリシタンのマリア信仰…松尾恒一
敦煌文献より見る九、十世紀中国の女性と信仰…荒見泰史

「コラム」生きていく「妹の力」 3—
母親たちの富士登山安全祈願—富士参りの歌と踊り…荻野裕子

「コラム」生きていく「妹の力」 4—
女たちが守る村—東日本の女人講…山元末希

Ⅳ 女の（生）と「妹の力」—生活から歴史を眼差す

江馬三枝子—「主義者」から民俗学へ…杉本 仁

「妹の力」から女のための民俗学へ—考察…加藤秀雄

—瀬川清子の関心をめぐって—
「女坑夫」からの聞き書き—問い直す女の力…川松あかり

高取正男における宗教と女性…薫 友明

「コラム」生きていく「妹の力」 5—「公」と「私」と女性の現在…山形健介

「妹の力」をめぐる

ミニ・シンポジウムの歩み



定価 二,二〇〇 円(税込)
本体 三,〇〇〇 円
A5判並製カバー装・二八〇頁
二〇二三年十一月刊行
ISBN978-4-585-32536-9 C1339

書 名	部 数
女性の力から歴史をみる 【アジア遊学 290】 柳田国男「妹の力」論の射程 永池 健二 [編]	定価 3,300 円(税込)・本体 3,000 円 A5判並製カバー装・280頁 2023年11月刊行 ISBN978-4-585-32536-9 C1339
ご送付先（氏名・住所・電話番号）	

渾沌と革新の

明治文化

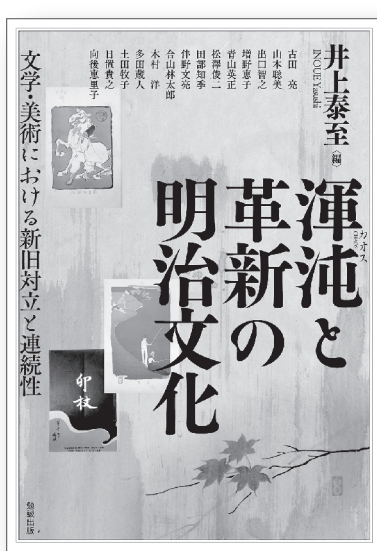
アジア遊学
285

文学・美術における

新旧対立と連続性

井上泰至 [編]

明治期の近代化の波は、
旧来の和歌・俳句・漢詩・演劇・美術など
文芸に関する諸ジャンルにも及んだ。
これら諸ジャンルは、小説を中心とする
新しいメディアや技法の展開とも関わりつつ、
相互に絡み合い、新たな時代における「あるべき姿」を
それぞれに模索していった。
「旧きもの」と「新しきもの」の相克と
渾沌から見える「可能性」とは何か――
「カオス」そのものに文化の「所在」を見える
新たな視点を提示する。



定価 3,080 円(本体 2,800 円)

A5判・並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-32531-4 C1391
2023年7月刊行

目次

序にかえて――高山れおな氏『尾崎紅葉の百句』に思う◎井上泰至

1 絵画

明治絵画における新旧の問題◎古田亮

秋声会雑誌『卯杖』と日本画・江戸考証◎井上泰至

好古と美術史学――聖衆来迎寺蔵『六道絵』研究の近代◎山本聡美

挿絵から見る『都の花』の問題

――草創期の絵入り文芸誌として◎出口智之

【コラム】目黒雅叙園に見る近代日本画の「新旧」◎増野恵子

2 和歌・俳句

【書評】青山英正『幕末明治の社会変容と詩歌』合評会記◎青山英正

子規旧派攻撃前後――鍋島直大・佐佐木信綱を中心に◎井上泰至

「折衷」考――落合直文のつなぐ思考と実践◎松澤俊二

新派俳句の起源――正岡子規の位置づけをめぐって◎田部知季

【コラム】旧派「俳諧」と教化◎伴野文亮

3 小説

仇討ち譚としての高橋お伝の物語

――ジャンル横断的な視点から◎合山林太郎

深刻の季節――観念小説『金色夜叉』◎国木田独歩◎木村洋

名文の影――国木田独歩と文例集の時代◎多田蔵人

4 戦争とメディア

【コラム】川上演劇における音楽演出

――明治二十年代の作品をめぐって◎土田牧子

【書評】日置貴之編『明治期戦争劇集成』合評会◎日置貴之

絵筆とカメラと機関銃

――日露戦争における絵画とその変容◎向後恵里子

編者プロフィール

井上泰至 (いのうえ・やすし)

防衛大学校教授。専門は日本近世文学。主な著書に『近世刊行軍書論』(笠間書院、二〇一四年)、『近世日本の歴史叙述と対意識』(編著、勉誠出版、二〇一六年)、『関ヶ原はいかに語られたか』(編著、勉誠出版、二〇一七年)、『関ヶ原合戦を読む――慶長軍記 翻刻・解説』(勉誠出版、二〇一八年) などがある。

書名	部数
渾沌と革新の明治文化 【アジア遊学 285】 文学・美術における新旧対立と連続性 井上泰至 [編]	部
ご注文先ご住所・氏名 (通信欄)	

地方史誌から世界史へ 比較地方史誌学の射程

小二田 章 [編]

定価8,800円(本体価格8,000円)

A5判・上製カバー装・336頁
ISBN978-4-585-32028-9 C3020
2023年6月刊行

「地方史誌」の比較検討から世界史を描く

地方を歴史的に描く総合的書物、「地方史誌」。
これらの書物は、世界的に存在し、歴史の産物として、
それぞれの地域・国家のアイデンティティと強固に結びつき、伝えられてきた。
「ある地方(地域)を描くこと」という人間の普遍的営みに着目し、
各地域の地方史誌形成・再解釈における歴史的展開を検討・比較。
地域・領域を越えて、相互の関係性を検討するための視角を提示する画期的な一書。

【目次】

序論 地方史誌学宣言●小二田章

1.地方史誌の黎明

風土記から見えるもの
——古代日本における地域意識●兼岡理恵
ムスリムたちによるアラビア語地方史誌の色々●森山央朗
中国史上における地方志編纂の夜明け
——北宋から南宋へ●須江隆

2.地方史誌の展開

「重立清浄寺記」に見るモンゴル時代泉州の多元主義●向正樹
前近代のヨーロッパに「地方史誌」を探る
——ルネサンス期フランドルの歴史叙述をめぐって●青谷秀紀
朝鮮近世の地方／地域と住民たち●吉田光男
日本近世の歴史意識●原淳一郎
ベトナム地方誌の編纂史について
——漢喃研究院所蔵資料を中心に●グエン ティ・オワイン

3.地方史誌と近代

「地方史」の編み方、読み方、伝え方
——19世紀ドイツの場合●小原淳
明治前期日本の地方史誌編纂●佐藤大悟
近代中国における郷土の叙述法
——江蘇南匯『二区旧五团郷志』にみる歴史意識●佐藤仁史

4.地方史誌を考える

Books in China Databaseと中国地方志の理解と活用のための
新しいアプローチ——マックス・プランク科学史研究所の
地方志研究グループの活動紹介●ジョセフ・デニス
近五年における中国方志学の研究動向●巴兆祥
日本地方史誌研究史のこころみ
——巴論文へのコメントとともに●白井哲哉

編集後記●小二田章

Summary

【編者プロフィール】

小二田 章 (こにた・あきら)

1979年生まれ。昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科特命准教授。専門は近世中国史、宋代以降の地方志編纂、東アジアの地方史誌。
著書・論文に『咸淳臨安志』の位置——南宋末期杭州の地方志編纂(『中国——社会と文化』28号、2013年)、『書物のなかの近世国家——東アジア「一統志」の時代』(高井康典行・吉野正史と共編、勉誠出版、2021年)、『「地方史誌」研究事始——近世日本の比較検討から』(『史観』186冊、2021年)などがある。

書 名	部 数
地方史誌から世界史へ 比較地方史誌学の射程 小二田 章 [編]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

中国学の 近代的展開と 日中交渉

(仮題)

陶徳民・吾妻重二・永田知之〔編〕

一九二〇年秋、京都帝国大学の内藤湖南教授が『章實齋先生年譜』を『支那学』に発表後、その刺激を受けた北京大学の胡適教授が同名の年譜を二年一月に上海の商務印書館より出版し、内藤に寄贈した。その自筆題辞の贈呈本（敬贈 内藤先生 表示敬礼と謝意 胡適）が関西大学図書館内藤文庫に現存している。本書はこの近代日中学術交流の象徴的事例を記念して、二〇二二年七月三十一日に関西大学東西学術研究所と京都大学人文科学研究所の共催で開催された国際シンポジウム「近代日本・中国における章学誠研究熱の形成とそのインパクト——内藤湖南、胡適および二十世紀中国学の諸相」をベースとして最新の研究成果を提示する画期的論集。

経学・史学・文学の研究をめぐる二十世紀前半日本・中国の一流学者間の切磋琢磨の典型例と全体像を振り返り、両国における中国学の近代的展開の諸相とその歴史的意味合いを再考する。

【編者紹介】

陶 徳民（とうとくみん）

関西大学名誉教授。東アジア文化交渉学会初代会長。主な著書に『もう一つの内藤湖南像——関西大学内藤文庫探索二十年（関西大学出版部、二〇二一年）など。』

吾妻重二（あづまじゅうじ）

関西大学文学部教授。日本中国学会副理事長。主な編著に『東西学術研究と文化交渉——石濱純太郎没後50年記念国際シンポジウム論文集（関西大学出版部、一〇一九年）など。』

永田知之（ながたともしゆき）

京都大学人文科学研究所准教授。主な著書に『理論と批評——古典中国の文学思潮（臨川書店、二〇一九年）など。』

アジア遊学（号数未定）

予価二、八五〇円（税込）
本体予価三、五〇〇円

A5判並製カバー装・三三〇頁前後
二〇二三年十二月刊行予定

【目次】

序説：陶徳民・吾妻重二

I 近代における章学誠研究熱の形成とそのインパクト

十九世紀中国の知識人が見た章学誠とその言説

——史論家・思想家への道：永田知之

「欧西と神理相似たる」東洋の学問方法論の発見を求めて

——内藤湖南における章学誠顕彰と

富永仲基顕彰の並行性について：陶徳民

戴震と章学誠と胡適——乾嘉への接続と学術史の文脈：竹元規人

「章学誠の転換」と現代中国の史学の実践——胡適を中心に（節訳）

……潘光哲（邱吉・竹元規人編訳）

余嘉錫の章学誠理解——継承と批判：古勝隆一

内藤湖南・梁啓超の設身处地と章学誠の文徳について：高木智見

【コラム】『章氏遺書』と章学誠年譜について：錢婉約

【コラム】何炳松と劉成炳の章学誠研究について：陶徳民

【コラム】清末・民国初期における史学と目錄学：竹元規人

【コラム】『文史通義』の訳出を終えて：古勝隆一

II 経史研究の新しい展開と日中人物往来

「東洋史」の二人の創始者——那珂通世と桑原隲藏：小嶋茂穂

羅振玉・王国維往復書簡から見る甲骨学形成

——林泰輔の貢献にふれて：羅琨（邱吉訳・永田知之校閲）

漢学者松崎鶴雄からみた湖南の経学大師

——王闓運・王先謙・葉德輝・井澤耕一

皮錫瑞『経学歴史』をめぐる日中の人的交流とその恩恵・評価：橋本昭典

近代日本における「春秋公羊学」について：劉岳兵（殷晨曦訳・古勝隆一校閲）

諸橋徹次と中国知識人たちの交流について

——基本史料研究の現状および展望：石曉軍

武内義雄と吉田鋭雄——重建懷德堂講師の留学と西村天囚：竹田健二

【コラム】水野梅暁とその関係資料：劉曉軍

【コラム】『古史弁』の登場と展開：竹元規人

【コラム】宮崎市定における「宋代ルネサンス」論の形成とその歴史背景：呂超

【コラム】北京の奇人・中江丑吉——その生い立ちと中国研究：二ノ宮聡

III 民間文学と現代中国への眼差し

狩野直喜の中国小説研究——塩谷温にもふれて：胡珍子

青木正児の中国遊学と中国研究：周岡

増田渉と辛島驍——魯迅『中国小説史略』の翻訳をめぐる：井上泰山

竹内好と中国文学研究会のあゆみ：山田智

【コラム】敦煌学が開いた漢字文化研究の新世界：永田知之

【コラム】雑誌『支那学』の創刊と中国の新文化運動：辜承堯

【コラム】吉川幸次郎と『東方文化研究所漢籍分類目録 附書人名通検』

……永田知之

跋文 永田知之

書 名	部 数
中国学の近代的展開と日中交渉（仮題） 【アジア遊学（号数未定）】 陶徳民・吾妻重二・永田知之〔編〕	予価3,850円（税込）・本体予価3,500円 A5判並製カバー装・320頁前後 2023年12月刊行予定
ご送付先（氏名・住所・電話番号）	部

ひらかれる公共資料

「デジタル公共文書」という問題提起

「デジタル公共文書」の挑戦 ——新しい公共資料を考える

デジタル環境の中、従来の公文書のみならず、
公共性をもつ民間のデジタルコンテンツも対象として、
利活用可能な形で蓄積されるべき「デジタル公共文書」。
この新たな概念を、利活用者の視点から、
新しい知識や社会生活などを生み出す源泉として位置づけ、議論を試みる。



定価 3,520円(本体3,200円)
A5判並製カバー装・216頁
ISBN 978-4-585-30303-9・C1000
2023年11月刊行

目次

本書の趣旨と構成●福島幸宏

序章 「デジタル公共文書」をめぐって
——いくつかの論点●古賀崇

第1章 公文書管理問題と電子文書化のゆくえ●瀬畑源

第2章 大学の情報をめぐる諸制度と取り組みの展開過程からみる「デジタル公共文書」●加藤諭

第3章 「デジタル公共文書」と民間資料

——市民活動資料の視点から●山本唯人

第4章 これからの情報基盤とデジタル公共文書

——DX以降の社会に向けて●林和弘

第5章 ウェブアーカイブとオーラルヒストリー—デジタルアーカイブ

——海外の「デジタル公共文書」の先行事例として●武田和也

第6章 研究データを公共空間に繋げる

——データジャーナルによるデータ共有体制の構築●南山泰之

第7章 パブリックヒストリーから考える「デジタル公共文書」●菊池信彦

終章 「デジタル公共文書」の議論と公共の再定義●福島幸宏

執筆者一覧

第2期・全3巻 完結！

●デジタルアーカイブ・ベーシックス (第1期 全5巻/既刊)

- 第1巻 権利処理と法の実務
- 第2巻 災害記録を未来に活かす
- 第3巻 自然史・理工系研究データの活用
- 第4巻 アートシーンを支える
- 第5巻 新しい産業創造へ

●デジタルアーカイブ・ベーシックス (第2期 全3巻)

- 第1巻 知識インフラの再設計
- 第2巻 共振するデジタル人文学と
デジタルアーカイブ
- 第3巻 ひらかれる公共資料

【編者プロフィール】

福島幸宏(ふくしま・ゆきひろ)

1973年生まれ。慶應義塾大学文学部准教授。
専門はデジタルアーカイブ、図書館情報学、アーカイブズ、日本近現代史。
主な著書に『デジタル時代のアーカイブ系譜学』(共著、みすず書房、2022年)、『占領期の
都市空間を考える』(共著、水声社、2020年)、『デジタル文化資源の活用——地域の記憶
とアーカイブ』(共著、勉誠出版、2011年)などがある。

書名		部数	ご送付先ご住所(通信欄)
デジタルアーカイブ・ベーシックス ひらかれる公共資料 「デジタル公共文書」という問題提起 福島幸宏[責任編集]		部	
定価 3,520円(税込)・本体3,200円 A5判並製カバー装・216頁 ISBN 978-4-585-30303-9・C1000 2023年11月刊行		部	
①知識インフラの再設計 定価3,520円(本体3,200円) 256頁/2022年11月刊行 ISBN 978-4-585-30301-5・C1000	部	②共振するデジタル人文学と デジタルアーカイブ 定価3,520円(本体3,200円) 248頁/2023年7月刊行 ISBN 978-4-585-30302-2・C1000	部
デジタルアーカイブ・ベーシックス 第1期 全5巻			
①権利処理と法の実務 240頁/2019年3月刊行 ISBN978-4-585-20281-3 C1000	部	②災害記録を未来に活かす 208頁/2019年8月 ISBN978-4-585-20282-0 C1000	部
③自然史・理工系研究データの活用 240頁/2020年4月刊行 ISBN978-4-585-20283-7 C1000	部	④アートシーンを支える 312頁/2020年12月刊行 ISBN978-4-585-20284-4 C1000	部
⑤新しい産業創造へ 288頁/2021年5月 ISBN978-4-585-20285-1 C1000	部	各巻定価2,750円(税込)・本体2,500円 A5判並製カバー装	

海外の日本中世史研究

「日本史」・自国史・外国史の交差
『アジア遊学289号』

黄霄龍・堀川康史〔編〕

日本中世史は、日本人研究者による「自国史」研究としてだけでなく、海外においても、

日本とは異なる文化的・学術的背景のもとで研究が進められ、地域ごとの特色を帯びながら独自の発展を遂げている。

この数十年の間、国や地域を越えた学術交流はより一層広がりをみせているが、

各地域における研究視角や背景を踏まえた相互参照・相互批判までには至っていないのが実情である。

本書では、英語圏・韓国・中国・ドイツ語圏における研究の動向、在外研究による経験・知見、参照軸としての日本における外国史研究、

外国語で書かれた近年の研究成果などを通じて、多元的に存在する地域ごとの「知の体系」を照らし出すことで、「知の循環」の実践のための道筋を示す。

もくじ

序論 日本中世史研究をめぐる知の交差 ●黄霄龍・堀川康史

第1部 海外における日本中世史研究の現在

光と闇を越えて——日本中世史の展望 ●トーマス・コンラン

韓国からみた日本中世史——「伝統」と「革新」の観点から ●朴秀哲

中国で日本中世史を「発見」する ●銭静怡

ドイツ語圏における日本の中世史学 ●ダニエル・シュライ

英語圏の日本中世経済史研究 ●イーサン・セーガル(坂井武尊●翻訳)

女性史・ジェンダー史研究とエー・ジェンシー ●河合佐知子

海外における日本中世史研究の動向

——若手研究者による研究と雇用の展望 ●ポーラ・R・カーティス

「コラム」在外日本前近代史研究の学統は描けるのか ●坂上康俊

第2部 日本側研究者の視点から

イギリス滞任経験からみた海外における日本中世史研究 ●川戸貴史

もう一つの十四世紀・南北朝期研究

——プリンストン大学での一年から ●堀川康史

歴史翻訳学とはじめ——英語圏から自国史を意識する ●菊地大樹

ケンブリッジ日本学見聞録——研究・教育体制と原本の重要性 ●佐藤雄基

ドイツで／における日本中世史研究 ●田中誠

「コラム」比較文書史料研究の現場から ●高橋一樹

第3部 日本で外国史を研究すること

日本で外国史を研究すること——中世ヨーロッパ史とイタリヤ史の現場から ●佐藤公美

交錯する視点——日本における「外国史」としてのベトナム史研究 ●多賀良寛

日本でモンゴル帝国史を研究すること ●向正樹

自国史と外国史、知の循環——近世オランダ宗教史学史についての一考察 ●安平弦司

「コラム」中国における日本古代・中世史研究の「周縁化」と展望 ●王海燕

第4部 書評と紹介

南基鶴『가마쿠라마부 정치사의 연구』(鎌倉幕府政治史の研究) ●高銀美

Kawai Sachiko, *Uncertain Powers: Sen'yōmon-in and Landownership by Royal Women in Early Medieval Japan*(河合佐知子「土地が生み出す」力の複雑性

——中世前期の荘園領主としての天皇家の女性たち) ●亀井ダイチ利永子

Morten Oxenboell, *Akutō and Rural Conflict in Medieval Japan*

(モーテン・オクセンボール「日本中世の悪党と地域紛争」) ●堀川康史

Morgan Pitelka, *Reading Medieval Ruins: Urban Life and Destruction in Sixteenth-Century Japan*(モーガン・ピテルカ「中世の遺跡を読み解く——十六世紀日本の都市生活とその破壊」)

●黄霄龍

Thomas D. Conlan, *Samurai and the Warrior Culture of Japan, 471-1877: A Sourcebook*

(トーマス・D・コンラン「サムライと日本の武士文化：四七一—一八七七 史料集」) ●佐藤雄基

「コラム」新ケンブリッジ・ヒストリー・オブ・ジャパンについて ●ヒトシ・トノムラ

【編者紹介】

黄霄龍 (こう・しょうりゅう) ●東京大学東洋文化研究所特任研究員。専門は日本中世史、東アジア宗教社会史。主な業績に『日本中世の地方社会と仏教寺院』(吉川弘文館、近刊)、

Authority and Competition: Shingon Buddhist Monastic Communities in Medieval Japanese Regional Society, *Japanese Journal of Religious Studies* 48.1, 2021, などがある。

堀川康史 (ほりかわやすみ) ●東京大学史料編纂所准教授。専門は日本中世史(南北朝内乱と室町幕府地方支配の研究)。主な業績に『今川了俊の探題解任と九州情勢』(『史学雑誌』二五—二二、二〇一六年)、『室町幕府支配体制の形成と展開』(『歴史学研究』一〇四二号、二〇一三年)などがある。

書名	冊数
海外の日本中世史研究 「日本史」・自国史・外国史の交差 〔アジア遊学289号〕 黄霄龍・堀川康史〔編〕	冊
ご注文先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社
(勉誠出版)

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025